

【埋没】決定稿

作・中津留章仁

登場人物表

現在

川村明水（かわむら・あけみ）村出身者

岡林源（おかばやし・げん）樵 明水の弟

岡林美樹（おかばやし・みき）源の妻 栄次郎の娘

和田守（わだ・まもる）

森林組合 栄次郎の息子 美樹の弟

朝倉晋（あさくら・すすむ）建設業者

明神大輔（みょうじん・だいすけ）新聞記者

坂井翔子（さかい・しょうこ）NPO役場勤務

和田栄治郎（わだ・えいじろう）議員

過去

和田裕信（わだ・ひろのぶ）議員 栄治郎の父

和田栄治郎（わだ・えいじろう）樵

和田公子（わだ・きみこ）栄治郎の妻

岡林恵（おかばやし・めぐみ）明水の母

岡林流（おかばやし・りゅう）明水の父

公文華（くもん・はな）村民

別役広太（べつちやく・こうた）銀行員

プロローグ

蝉の音。

舞台に明かりが入るとそこは、高知県の山間にある村。

橋に明水がやって来る。橋の上。

電話をしながら、明水がやって来る。

明水 ……そうよ……今、南海トラフ地震が来るっていえば、誰でも心が動くき。そうやって契約取らんとよお。……うちの母は、人の顔見てお金思わんようにていいゆうがやけど……少しはそう思うていかんと、契約は取れんがって。……ああ御免、今私市内におらんが。母の里に來ちゆう。そうそう、大川村。弟が住んじゆうき……そうやないがよ。母がよ、様子見て来い言いゆうが。弟やないが。村のよお。ほら、ちよつと前によお、ここ新聞載つたらう。……いや、私だつてこんなへんぴな村來とうないちや。正直村の人らあも、あんまり好きやないがって。……けんど私ほら、離婚したろう。何となくよお、弟の様子も見にきたかつたがよ。契約の更新もあつたき。……離れちよつても、一応家族やきよお。……うん、御免よお、はいはい、また。

と電話を切る。橋の上から風景を眺める明水。

明水 ……。

車がやってくる音。

車が停車する音。

ドアが開き、閉まる音。

明神の声 こんにちは。

明水は橋の向こうをみる。

明神がやって来る。

明水 ……。

明神 あ、坂井さんですか。

明水 いいえ。
明神 あれ、すみません、失礼しました。

明水は会釈する。明神は携帯を見て、来た道の方を見る。明水は川の水を見ている。間。

明神 村の方ですか。

明水 市内から。

明神 私もです。お仕事か何かで。

明水 両親が、生まれた場所です。

明神 里帰りですか。いいところですね、ここは。こちらへは、よく。

明水 弟が住んでいるんですが……あまり。遠いですから。

明神 車で2時間弱はかかりますものね、市内から。

明水 最近、話題になっていますでしょう、ここ。

明神 ええ。今は、離島を除いて、最も人口が少ない村です。

明水 ……そう言われると、何だか後ろめたい気持ちになるんだそうですよ。

明神 え。

明水 うちの母が。市内の施設にいるんです。

明神 ……そうですか。

坂井の声 すみませーん。

坂井が走ってやって来る。

坂井 明神さんですよね。

明神 はい。

坂井 私、役場でお手伝いしています、緑の協力隊というNPOから来ました坂井と申します。(名刺を差し出す)

明神 (受け取って) 明神です。村長さんとはよくお会いしているのですが。(と名刺を差し出す)

坂井 (受け取って) 存じ上げております。あの、村議会が村民総会になるかもしれないという記事、読ませていただきました。大変な反響です。

明神 ありがとうございます。

坂井 村長は取材で出て来られないので、宜しくお伝え下さいと。

明神 そうですか。

明水 すみません。
坂井 はい。
明水 あの記事を書いたのは、あなただったんですか。
明神 あ、ええ。すみません、ご挨拶遅くなりました、私、
毎経新聞の明神と申します。(名刺を渡す)
明水 (受け取って) 川村明水です。保険のおねえさんをして
います。
明神 ああ。
明水 あ、ごめんなさい、おばちゃんです。
明神 ああ。(笑う)
明水 すみません、記者さんとは知らず、変なことを言っ
てしまつて。
明神 いええ。
明水 ですが、村民総会だなんて、本当に出来るんですか。
明神 はい。
明水 村の議会では、本当にそんなことを話していたんでし
ようか。
明神 ええ。今の議員も無投票で当選した方です。次の任期
で、ご高齢の議員が辞めると宣言していますので、議員
数が定員割れしたら、そうならざるを得ません。
明水 でも、この村は、隣の家まで車で10分なるところ
も沢山ありますでしょう。ご高齢者は集まることが出
来るでしょうか。正直、現実的ではないと思いますが。
明神 全ては、人口の減少が問題だということです。……あ
あ、こちら、ご両親が村のご出身だそうです、今は弟さ
んがこちらにいらつしやるんだそうです。
坂井 坂井です。弟さんはこちらで何のお仕事を。
明水 議員の和田栄治郎さんはご存知ですか。
坂井 はい。
明水 あの方の後を継いで、自営の林業を。
坂井 ああ、ひよつとして、源さんですか。
明水 そうです。
明神 お知り合いですか。
坂井 村の人口は400人ですから、半年も住めば、大概の

人は顔見知りですよ。

ですよね。

あの、実はこれから、堰堤工事を取材させていただくことになっておりまして。

堰堤。

川が土砂で濁らないようにコンクリで堰を作るんです。

そんなもん、作りゆうがですか。

それで、村で林業をなさっている方にも取材しようと思っていたんですが、もし宜しければ、弟さんをご紹介していただけませんか。

堰堤と林業が、どう関係あるがですか。

要するにですね、川の水が濁らないようにするために、山の木を間伐や除伐といって、根がしっかり張るように計画的に伐採しなければならぬんです。山の土が川に流れ込んでしまうので。

この辺りだけ水道が整備されていますが、他の地域は自然の湧き水から直接ホースを引いている家がほとんどです。水が濁ると堰堤が必要になるんです。ここでは山の木と川の水が、生活と密接に関係しています。弟さんのご都合がよろしければ、その名刺のアドレスにご連絡下さい。

わかりました。

明神さん、そろそろ。

はい。

二人とも、高知の人ではないがですか。

はい。私は京都の大学から来ました。

私は東京の出身です。やっぱり違いますか、発音が。

ええ。高知では、明神さんじゃなくて。

明神さん。

です。(笑う)

では。

失礼します。

明神と坂井は去る。明水は会釈をする。車のドアが開き、閉まる音。車が去っていく音。それをし

ばらく目で追う明水。
明水は、水を見つめる……。
蟬の音が大きくなる。
暗転。

第一場

和田家の屋内。その居間と台所。居間には座卓があり、居間の奥には廊下がある。今から外に出ると、工場に通じている。台所には手製である木の椅子などが置かれており、その脇にはシンクや棚が施されている。

T・1960年

居間で酒を飲んでいる栄治郎と流。台所で酒の肴を作っている公子。

栄治郎 冗談やないがよ。絶対止めるき。

公子 けんど、香川は水がないってゆうがやき。歯を磨くに水出しっぱなしにしたら怒られる言いゆう。

栄治郎 おまん、えいがかダムが出来てん。

公子 えい訳ないがよ。

栄治郎 徳島は徳島でもう水が手に入ったような騒ぎらしいき。あいつら高知の水を、自分の水や思うちゆう。中央の人間は、四国が4県とも仲悪いがあ知らんがやる。

公子 仲えい悪いの問題やないがよ。

栄治郎 何で他県の水を高知で賄うが。

公子 四国はひとつやあ言いゆう。

栄治郎 なにが四国は一つじゃ。それで迷惑被る人間がおりゆうことを何も考えちよらん。

公子 四国全土に水がないき。高知だけよ、こじゃんと水があるがは。ほんならダムが必要やいう話になるき。

栄治郎 ダムは作らせんちや。

流 栄治郎、もうえいが。

栄治郎 おまん、俺がこじやんと頭来ちゅうのがわからんが。まっことはちきんやき。

流 まあまあまあ。

と酌をする流。

流 けんど、隣の土佐村も本山町もダムの補助金が出るらしいで。何で大川村にだけ補助金が一円も出んが。不公平やき。大川の人間をなんやと思うちゅうが。

公子 ここは、山を切り崩して川を広げることになっちゅうき。ダムの堰堤がある住所にしか補助金が下りんらしいき。

栄治郎 ダムは出来んて言いゆうろう。

流 その予定やち言うゆうが。

公子 二人とも、飲み過ぎやき。それ以上大声出すやったらお酒出さんき。

間。

流 裕信さん、いつも来て来るが。

栄治郎 知らんちや。今日また公民館に集まっちゅう。

流 もしそうなたたら、どればあ山の上に追いやられる計画ながで。

栄治郎 百メートルじゃ聞かんゆう話やき。

流 そうながや。そりやあのが悪うなるのう。田んぼもないし。何でおんちゃん俺らあには口出すなあ言いゆうが。

と酒を注ぐ流。お猪口を持つ栄治郎。

栄治郎 こじやんと騒ぎになっちゅうが。俺らあ若いもんまでおると、村長さんも、纏めにくうなるがよ。……おう、まけまけ一杯。

栄治郎は酒を飲む。

流 けんど、ダムの計画は進みゆうろう。それがまっことやったら、おらんくの田んぼも畑も、みな川ん底ちや。

栄治郎 やき、親父らあが毎晩話し合いゆうが。

流 じゃあのをて、俺らあここに住みゆうが。国はそん土地を奪えるが。ひどいのう。

公子 ひどいわえ、中央の人間は。

栄治郎 やき断固反対ちや。高知の男はこじゃんといごっそう
やち、教えちやらんとこのう。まだ飲まんかえ。

流 おう。

栄治郎 公子、もう一本。

公子 そんながいな言い方せられんろう。

栄治郎 はちきんやにや。

栄治郎は自分で日本酒を徳利に入れる。公子は酒
の肴を出す。

公子 どうぞ。

流 ああ、すみません。

栄治郎 ……そう落ち込まんでえいき。

流 家が無くなるかもしれないがで。

栄治郎 そげなことさせんちや。ほれ。

と酌をする。

恵の声 こんばんは。

公子 はーい。あがりや。

恵の声 はーい。

流 何であいつが来ちゆうが。

公子 うちが呼んだがよ。いつまでも終わらんき。

恵がやって来る。

恵 こんばんは。

公子 すまんのう、メグちゃん。

恵 えいよ。ありがとうな。……あんだ、いぬるよ。

栄治郎 まあ座りい。

恵 えいよ。明日もあるがやろ。ほら。

流 ちよう待ちや。今大事なこと話しゆうき。

恵 あんたらあ、ダムにかこつけて、ただ飲みゆうだけや
ろが。

流 そんなことないちや。のう。

栄治郎 おう。

恵 こんなどころで飲みよつてもダムには反対出来んろう
がえ。

栄治郎 飲まんとおれんちや。

恵 あんたらあも公民館行って話し合いに参加してきいや。

流 向こうが来るな言いゆうがやき。

恵 それがおかしいがよ。村の皆で知恵を出し合わんと。

公子 メグちゃん、どうせ公民館でも飲みゆうで。

恵 ああ、そうながや。まっことどうにもならんなあ、高知の男は。

流 ほんならなあ。

恵 何い。

流 どうしたら村を守れるがで。何か良い方法があるがか、おまんに。村中に反対の立て看板をみんなあで立てても、意味がないゆうろうが。

恵 国の人と話さんとどうにもならんちや。うちらあは村のこの土地が、どればあ大切かをわかってもらうしかないがやろう。国からの説明も聞かんと反対反対言い続けてもしやあないって。それに川下の本山町は町を上げて賛成の方向で纏まりゆうが。川下が賛成したら、川上のうちらあも抵抗出来んで。本山町の人間とも話さんと。反対してくれえって。

栄治郎 安心しいや。土佐村は条件付きの反対やき。あそこは絶対に賛成にまわらんき。

恵 条件付きの反対は条件によつては賛成ゆう話やろ。

栄治郎 あっ……ああ。

恵 あんたらあは何のために飲みゆうが。そんなことくらいちいつと考えればわかるろうがえ。

流 話せちゆうても、俺らあ公民館にも呼ばれんが。

恵 何で呼ばれんがで。

公子 多分よお、本山町がダムに賛成しゆうろう。うちらあ若いもんが反対運動に参加しよつたら、ずっとしこりが残るかもしれん思いうがやろ。

栄治郎 親父らあもいろいろ考えゆう。流から、公民館の話し合いに参加したいて聞いたで。けんどなあ、ここは大人らあにまかせようや。

恵 おんちゃんらあ信用出来るがかえ。ダムの話は十年くらい前からあつたやん。反対すれば絶対出来ん言いつたのに、結局ダムの話は決まったやんか。

栄治郎 やきこじやんと反対しゆうが。みんなで。

恵 村の声がどればあ届くが。それでも国はダム建設を進めゆうろう。

流 弱気になるなゆうたろうが。

恵 ……怖いだよ。中央の人間はこげな田舎のことなんて考えてないき。

流 おまんは……。

公子 メグちゃん、あんたがうちで愚痴言いゆうんを、流ちやんは面白ろうないがよ。やき毎晩うちに来ゆうが。

栄治郎 公子、余計なこと言わんでえい。メグちゃん、うちの親父らあを信用してくれんろうか。酒は飲みゆうかもしれんけど、みんな一所懸命やりゆうき。

恵 そげな悠長な話やないが。言いつうないけど……あんたの家は水没地域やないがやる。何も取られんやん。辞めんかおまんは。

流 事実やき。

恵 関係ないやろが。

栄治郎 メグちゃん、流の言う通りや。それは違うちや。俺らあこの村にダムらあ作つてほしゆうないがちや。それは、何処に住みよつても同じやき。

公子 そうで。先祖が守ってきた土地を荒らされるがあ、村の人間が一番嫌いやき。家が取られるとか取られんとかの問題やないき。村全体が壊されるかどうかの話なが。

恵 黙って待ちゆうしかないが、どうにも不安でならんちや。

流 おんちゃんらあを、信用するしかないろう。

恵 信用、出来るかえ。

裕信の声 ただいまあ。

栄治郎 もんてきた。

公子 お帰り。

裕信がやって来る。

裕信 おー、流が来ちゆう。メグちゃんも。

流 お邪魔してます。

恵　こんばんは。

裕信　公ちゃん、水。

公子　はい。

流　また、飲んじゅうがですか。

裕信　皆で集まっちゅうと、自然とこのう。

栄治郎　親父、そげん笑うて飲みゆう場合やないろうがえ。流

もメグちゃんも、公民館で毎日何話しゆうか心配で来
ちゅうがで。

裕信　おお、そうかそうか。そりゃあ心配かけて悪かったの
う。(と笑う)

公子が水を持って来る。

裕信　ありがと。

裕信は水を飲む。

流　裕信おんちゃん。

裕信　うん。

流　そいで、どげん塩梅ですか。

裕信は水を飲んでる。

恵　うちらあに何か出来ることがあつたら何でもゆうて下
さい。

裕信　そんな必要はないき。俺らあがやりゆうき。(と水を飲む)

流　おらんくの田んぼのことやないがですか。

裕信　安心しちよってえい。もうすぐわかるき。

恵　わかる。何がですか。

裕信　まだ言われんがちや。

公子　お義父さん、何か話しちやらんと、メグちゃん不安で、
夜もろくに眠れんらしいで。

裕信　そうながや。

恵　最近、食べるもんも、喉を通らんがです。

裕信　そりゃあ、ようないのう。

流　俺らあにも何か手伝わせて下さい。

栄治郎　…親父、流らあが話しゆうろう。

裕信　ちよう待ちや。今話すき。

裕信はグラスの水を飲み干す。

裕信　流、メグさん、毎晩公民館で話しゆうがはのう、大川

だけやのうて、土佐村も水没地区があるろう。やき土佐村も一緒に反対すると思うちよったがやけんど、土佐村の水没地区は中心地から離れちゆうき、ダム建設に賛成する可能性があるが。

流 そうながですか。

恵 家も畑ものうなるのにですか。

裕信 ダムを作れば、土佐村には国からお金が下りるきのう。

流 けんど大川には一円も下りんやないですか。

裕信 そうながよ。金も貰わんに土地だけ寄越せち国は言

いゆうが。絶対反対やきのう。けんど、川下の本山町と土佐村がそうなたら川上の大川は立場が益々不利になるろう。そうなたら国の圧力に耐えられんき。

ほんなら、反対運動の最後の砦を築こうちゆうて、今村で話が纏まりゆう。

栄治郎 最後の砦。

公子 何ですか、それは。

裕信 ダム建設の水没予定地のど真ん中に、大川の村役場を建設するが。

問。

流 村、役場。

裕信 鉄筋コンクリートでのう。

恵 ほんまですか。

裕信 おう。もう金の算段もついちゆう。

栄治郎 ええやんか。ぼっちりや。役場が出来たら、国も簡単にはダムらあ作れんちや。のう流。

流 おう。

公子 凄いやんか、お義父さん。

流 ありがとうございます。

裕信 礼らあいらんちや。けんど公団の人間が何処におるかわからんき。議会で決まるまでは誰にもゆうたらいかんで。業者が決まれば、すぐに着工するきのう。

公子 良かったやんメグちゃん。

恵 ……（涙ぐんで）うん……うん……。

公子 ああん、見てみい、泣きゆう。大丈夫かえ。

恵 うん……裕信おんちゃん……御免なさい。

裕信 うん。

恵 うち、おんちゃんらあを、どこか信用出来んかったが
です。公民館で話しゆう人らあが、家がなくなるもの
のことをどればあ考えてくれゆうかわからんかったき。
御免なさい。御免なさい。

裕信 気持ちわかるで。けんど、ちゃんとやりゆうき。

恵 まつこと、ありがとうございます。

裕信 泣かんでもえいが。よっしゃ、もう一杯やるか、流。

流 はい。

栄治郎 公子、酒持ってきてい。

公子 もうやりゆう。……あら、水が出んが。

栄治郎 ええつ。

裕信 あれや、ホースが外れちゆうかもしれん。

栄治郎 まつこと。

裕信 おんしゃあ、ちつくと見てきい。

栄治郎 今から。

裕信 水が出んとなんちゃあ出来んちや。

栄治郎 飲もう思いつたのに。

流 俺も行くちや。

栄治郎 いやいや、おんしゃあは飲め。折角やき。

公子 けんど、一人で行くがあは危ないちや。

栄治郎 えいがよ。猟銃は持って行くき。

公子 お隣さんとか誘って行きい。

裕信 もう寝ちゆう。

恵 あ、うち行こうか。

公子 え。

栄治郎 メグちゃん、結構山奥で。

流 足手まといになるき。道もなんもねえところやき。

恵 えいよ。ちいっと外の風に当たりたいちや。

栄治郎 そうかえ。

流 御免。ほんなら連れてっちやつて。

栄治郎 ほんなら行こうかねえ。

公子 あんたサンダルで来ちゆう。うちの靴貸しちやるか。

恵 有り難う。

栄治郎 ほな行って来るわ。

公子 うん。

裕信 頼むで。

栄治郎は猟銃と懐中電灯を持って、恵と去る。公子も見送るようにして去る。

裕信 飲みや。

流 はい。

と酌をする。

裕信 美味しいのう。

流 はい。

裕信 こん酒も、おまんくの米も、水が綺麗やなかったら出来んちや。川の水を綺麗に保つにはのう、結局自然の姿のままが一番やち、俺の親父も言いよつたが。……こん水を、末永く、守っていかないかんがよ。そんなには、何人たりとも、この村を荒らさせんきのう。

酒を飲む流と裕信。

明かりが変わる。

転換。

第二場

暗闇。月明かりの山中。懐中電灯の明かり。

湧き水の音。虫を払い、草をかき分けながら一歩ずつゆっくりと歩を進める若き栄治郎がやって来る。

栄治郎 (後ろを振り返って) もうすぐそこやき。

やって来る恵。

恵 まっこと道なんかないがやね。こなとこから水引っぱりゆう。

栄治郎 来ん方がえいと思うたやろ。

恵 大丈夫。けんどあんた、こんな山奥の土地勘がようあ

るね。

栄治郎

水が濁ったり出らんようになったら、たまに来るき。

最初は俺もよう来れなかった。爺ちゃんが親父へ、親父から俺へ、代々受けついじゅう。

恵

……あ、水の音がしゅう。

栄治郎

うん。この辺や。

懐中電灯で木を照らす。

栄治郎

ああ、こん木がここやき、あの辺やろか。ちつくと持つちよいて。見て来るき。

恵

うん。

と栄治郎は恵に猟銃を渡し、草をかき分け、山肌の方へ向かう。

栄治郎

親父らあ、よう考えたにやあ。

恵

うん。

栄治郎

村役場が出来たら、国やちダムらあ作らせられん思うろう。

恵

まっことよ。……これで、よう眠れるわ。

栄治郎

ホースがここやき……あった。

恵

あった。

栄治郎

やっぱり外れちゅう。

栄治郎は懐中電灯で照らしながら、持っていたロープやワイヤーで修繕する。恵は栄治郎の側に歩を進める。

恵

ああ、こんな風になっちゅうが。

栄治郎

待ちよってや。ざんじ済むき。

恵

うん。

栄治郎は修繕を続ける。

間。

草がバサバサと動く物音。

恵

……何……今の。

栄治郎

何かおりゅう。

恵

えっ。

栄治郎と恵は懐中電灯で辺りを照らす。栄治郎は草を掻き分けて、音のする方へと近づいて行く。

何かが歩く物音がする。その度に懐中電灯を向ける栄治郎。

恵 もうほっちよきや。……栄治郎さん。

栄治郎 静かにしいや。

恵 しよう怖いが。……栄治郎さん。

栄治郎 声出したら向こうも怖がるき。……おった。イノシシや。

恵 えっ。まっことね。

栄治郎 静かにしいや。それ貸して。

と栄治郎は草を掻き分けて恵の方へ歩を進める。

イノシシの走る音。栄治郎は突然倒れる。

栄治郎 うわっ。

と倒れて懐中電灯を落とす栄治郎。

恵 (奇声を発する)

栄治郎 おまん、何しゆうが。

と立ち上がるうとする栄治郎。

栄治郎 あああっ。

と再び倒れる栄治郎。草むらを激しく踏む音と鼻

息の音。

恵 栄治郎さん。

栄治郎 噛まれた。

恵 ええっ。

栄治郎 おまん、離せ、この。(とイノシシを蹴る)

恵 大丈夫かえ。栄治郎さん。

栄治郎 メグさん。撃つとうせ。

恵 ええっ。出来んちや。

栄治郎 引き金引くだけやき。……早う。

恵 栄治郎さんに当たったらおおごとやき。

栄治郎 構わんき。早う。この……この……この……この……。

恵は猟銃を構える。栄治郎はイノシシを蹴るが、

イノシシは離さない。

栄治郎 (痛がって) あああっ。……メグさん、早う……早うっ。

恵 うあああああーっっっ。

栄治郎 恵は大声を発して猟銃を発砲する。
もう一発。レバー引いて。

栄治郎 恵は再び発砲する。ばさりと草むらが揺れる音。

栄治郎 ……助かった。

恵 大丈夫。

栄治郎 傷は浅いけど、血が出ゆう。

恵 これ、使いや。

と恵は手ぬぐいを栄治郎に渡す。栄治郎は手ぬぐいを足に撒く。

恵 歩けるかえ。

栄治郎 こんぐらいで参っちゃったら、山では暮らせんちや。

恵 初めてや、生き物殺したがは。

栄治郎 ……メスや。これで暫く、肉には困らんちや。

可愛らしい動物の鳴き声。恵は懐中電灯で声のする方を照らす。

恵 あ。

栄治郎 何。

恵 子供のイノシシがおるで。

栄治郎 え。

恵 ホースのところで、水を飲みゆう。

栄治郎 栄治郎も懐中電灯の先を見る。

栄治郎 ……（小声で）こいつやったかえ、ホースを外したが
は。

恵 え。

栄治郎 （小声で）イノシシも、あこの水を好いちゆうがよ。

よう澄んじよって、美味いきに。

恵 かわいそうやなあ。お母さん、おらんごとになってし
もうたき。

ゆつくりと立ち上がる栄治郎。

栄治郎 ……（小声で）有り難く、いただこうや。殺した命を、
粗末にしよったら、あん子にも申し訳ないき。

恵 ホース、直さんでえいが。

栄治郎 シッ…（小声で）もうちいと、飲ましちやろうや。

恵 ……そうやね。

子イノシシの愛らしい鳴き声。
懐中電灯が消える。
転換。

第三場

T・2017年。

川の音と重機の音が入り交じる。

堰堤工事現場付近。

トラックのバックする音。

朝倉 (出てきながら袖に向かって) オーライ、オーライ、
オーライ……はーい。

トラックのドアが開く音。

朝倉 ご苦労様です。(別の人に) お願いします。

パワーショベルでトラックに土砂を積む音。朝倉
は袖に向かって声をかける。

朝倉 すみません、お待たせしました。

明神 ああ、いえ。

坂井 御免なさい朝倉さん、お仕事中に。

朝倉 ああ、えいがえいが。

明神 村ご出身の方だそうですね。

朝倉 親がこの村でないと暮らせないと言うもんですから。

明神 わかります。いいところですよんね。

朝倉 不便ですよ。

坂井 役場の隣に一件だけ食堂がありましたでしょう。飲食

店はあるとだけなんです。

朝倉 飲み会はもっぱら誰かの家でして。

明神 そうですか。

朝倉 で、何をお聞きしたいんでしょうか。

明神 堰堤は、水が濁ることを防ぐ為に作ると伺いました。

朝倉 ええ、川の水が土砂と一緒に流れるのを防ぎます。

明神 実際、川の水はどのぐらいの頻度で濁るんですか。

朝倉 ええ、雨量が多い時などは、たまに。
 明神 それをどの程度、防げるものなんでしょうか。
 朝倉 どの程度。ううん、難しい質問ですね。それはある程度、としか、言いようがありませんね。
 明神 では、堰堤を造つても、例えば、想定していない程の雨量がある場合は、濁るといふことですか。
 朝倉 まあ、その可能性が全くないとは言いません。
 明神 やはり水の濁りを防ぐ為には、山の木をしっかりと管理する方が良くとお考えでしょうか。
 朝倉 そういったことは、森林組合さんがやることなので。でも、だからといって堰堤が全く必要ないということではありません。今は温暖化による異常気象などで、雨量が増えていきますし、土砂が塞ぎ止められなかったら、また新しく堰堤を造れば良い訳ですから。
 坂井 川上の方から、何重にも堰堤を造って水質を保つのは、どこの川でもやってはりますよね。
 朝倉 それにですね、水が濁る対策を何もしていないと、それはそれで行政も村民からいろいろと突っ込まれますから。
 明神 成る程、きちんと水質保全の対策は行っているという形も重要だという訳ですか。
 朝倉 はい。
 明神 ……少し、現場を見学させていただいても宜しいですか。
 朝倉 ああ、じゃあ、ヘルメットを着用してください。(と渡す)
 明神 有り難うございます。(と被る)
 朝倉 五百蔵さん、例の新聞社の方です。
 明神 はい。ちよつと行ってきました。
 坂井 はい。
 明神 明神は去る。
 朝倉 何、あの人。
 坂井 例の、大川村の記事を書いた人です。村長さんとも、顔見知りですよ。

朝倉 けんど、質問がおかしくない。まるで堰堤を作っても意味がないみたい。そういう記事を書こうとしてるなら困るがよ。

坂井 そんな風に書かないように、それとなくゆうときます。頼むきね。

坂井 はい。

朝倉 ……あ、そうだ、ねえ、今日の夜空いちゆう。

坂井 ええ。

朝倉 今晚、向こうの山にある川縁で、映画の上映会があるがよ。

坂井 そんなのやってるんですか。

朝倉 川に足つけてよ、その向かいに大きな岩があつてよ、それをスクリーンにするがよ。

坂井 凄い、面白そう。

朝倉 やろう。どう一緒に。

坂井 ううん、どうしよつかなあ。

朝倉 行こうや。

坂井 じゃあ……はい。

朝倉 やったー。やつとデートのオツケーが出たあ。

坂井 声が大きいですよ。

朝倉 ああ、御免御免。じゃあ、仕事終わったら連絡するきね。

坂井 わかりました。

二台の車が停車し、それぞれのドアが開く音。

守の声 (小声で) ちょっと待ってって言いゆうろう。

源の後を追って守がやってくる。

源 (小声で) 大丈夫やき。

守 (小声で) 俺が話すき。

朝倉 (気づいて) おう守。源さんも。

坂井 こんにちは。

守と源は会釈をする。

朝倉 こんな山奥で何しゆう。

源 お前からこそ何しゆう。

守 俺が話すき。

朝倉 どうしたが。

守 ……丁度、森林組合の伐採計画があつて、朝から源さんと上におつたがよ。

朝倉 そうながや。

守 いつからやりゆうが。

朝倉 昨日から。

源 堰堤なんかいらんろう。

朝倉 もう決まっちゆう工事ですき。

源 聞いてないが。

朝倉 栄治郎さんから聞いちゆうろう。

坂井 そうですよ、議員さんですからねえ。工事のことは議會でちやんと話し合つてはりますよ。

守 親父は工事やること知っちゆうけんど、時期は何も知らんがよ。お前らあ、何で工事の告知をしてこんが。

朝倉 しちゆうろう。道の上も下も立て看立てちゆうき。

源 村民に知らせいでやりゆうろう。この辺りは、人も入つて来んき。

朝倉 そんなことないです。

明神が戻つて来る。

明神 何か、今は危ない作業中なので、ちよつとここで待機してほしいと。

朝倉 そうですか。

明神 どうしました。

源 (明神に) あんたが、えらいてか。
はい。

朝倉 (被せて) あ、いやあの。

源 (明神に迫つて) 勝手なことせられんろう。
(止めて) 源さん。(明神に) すみません。

源 堰堤で土砂を塞ぎ止めたら、それに付いちゆう微生物も川下に流れんようになるき。

坂井 (被せて) 源さん。

朝倉 (被せて) 違います違います。
魚も上に上つて行かれんろう。

守 やめや。

源 これ以上山を荒らさせられん。

明神 ……あのう、要するに、土砂が流れなくなると、川の生態系が壊れると、仰りたいん、ですかね。

坂井 ……源さん、こちら、新聞記者の方です。

源 あ。

明神 すみません、私、こういうものです。

と明神は源に名刺を渡す。

朝倉 今、取材に来ちゆうがです。

守 ああ、そうでしたか。

源 何の取材。

明神 川の水が濁ると聞いたものですから。

源 ほんなら、堰堤はいらんて書いてや。

明神 はい。

源 こんなもん作っても、水の濁りはなおらんき。

守にぶつかる源。

源 痩せろや。

源は去る。

守 どうも、うちの義兄が大変失礼しました。

明神 ああ、ご兄弟、ですか。

守 あの人は姉の旦那です。私、義理の弟で和田守と申します。

朝倉 私の同級生です。

明神 ああ、そうでしたか。……源さんというのは。

坂井 はい、あの橋の上で会った方の弟さんです。

明神 ああ、あの人が。

守 あ、明水さんに、お義姉さんに会ったがですか。

坂井 はい、さつき。

明神 あの、失礼ですが、こんな山奥で何を。

守 私、森林組合の者でして、義兄と間伐の相談を。

明神 ああ、間伐の。

朝倉 どうせまた怒っちゆうがやろ。

守 伐採の仕方が気に入らんみたいで。

朝倉 何で。

守 山の木に、風が入りすぎるで。

坂井 風。

守 山の、この辺りの木を切るがやる。ほんなら、ここが裸になって、横から風が入るらしいが。

朝倉 何が駄目なが。

守 風で木が揺れて、根っこまで動くと、そんな木はもう、商品になるような木に育たんがって。

坂井 何でそんな風に切ってしまったんです。

守 結局、間伐や除伐の木も売り物なんです。少しでもお金にしたいときは、多く切ることもあるんです。

朝倉 けんど、肝心の木が商品にならんと、困るやんか。

守 源さんは、目先のお金に目が眩んで、大事な木を無駄にしゆうって怒りゆう。俺らあ森林組合がしっかりしいやって。

朝倉 そうながや。

誰かの声 監督。

朝倉 はーい。ちよっとすみません。

朝倉は去る。

守 あ、じゃあ、私もこれで。

明神 あ、はい。

守 では。

互いに会釈する。守は去る。車に乗り込んで去る音。

坂井 明神さん。

明神 はい。

坂井 今更ですけど、これは何の取材ですか。

明神 どうして。
坂井 朝倉さんが、堰堤工事のこと、あんまり悪く書いて欲しくないと気にしてはったので。

明神 それは、勿論、ええ。

坂井 ……。

明神 確かに村長さんが仰っていた通り、村には経済主導の村づくりを求める方と、そうでない方に別れているようです。堰堤を作れば地元の建設業者は儲かり、木を切れば林業が儲かる。

坂井 私大学で、地域デザインの勉強をしているんですが、人の手で植えた木は、何十年後の伐採まで、ずっと人の手を借りなければならぬんですよ。これだけ過疎化が進んだ村で、全ての山を管理するのは、はつきり言って無理だと思います。

明神 ですが、経済主導型の村づくりの方がもっと無理ですよ。

坂井 朝倉さんも守さんも、確かに自然を壊しているかもしれませんが、それでも、皆さんが使う生活用水を綺麗に保とうって、それぞれ努力してはるんです。彼らの生活だってありますし。

明神 しかし、それでは川の生態系が壊れます。

坂井 その為には、人工林をしっかり管理しなければならぬんですよ。とても人手が足りません。

明神 あれも出来ない、これも無理だと言っているようでは、現状のままでもいいと認めてしまうことになります。それで果たして、こんなに減ってしまった人口を、再び増やすことが出来るでしょうか。村長さんをはじめ、村の要人達は合併をこの上なく嫌っておいでです。自分たちの力で何とか人口を増やそうと努力していらっしやいます。私も自分なりに、そのお役に立ちたいのです。

坂井 村の問題を記事にされるのは、村の人達が一番嫌うことですよ。悪いイメージがつくと、移住者が本当に来なくなりそうです。

明神 ……例えば、何も知らずに村に移住して来て、その後で村の抱える問題点を知ってしまったらどう思うでしょう。村を離れてしまうかもしれません。都合が悪いことも含めて、情報は開示するべきです。村の将来を共に考えていけるような、高い意識を持った移住者を集うべきだと、私は考えます。

坂井 立派ですね、明神さんは。私、ずっとこの村にいる訳じゃない腰掛け村民の分際で、村のことをあれこれ言う資格はないなと思ってました。

明 神 思ったことを言えばいいんですよ。それが村の為になるんですから。

坂 井 ……じゃあ、悩み、聞いてくれはります。勿論。何です。

坂 井 今、約一割ぐらいが移住者なんです。村で生まれた人と移住者の間に軋轢が生まれないように、村長さん達がほんまに気い遣ってくれはるんです。それが時々、申し訳ない気持ちになって。

明 神 どうして。

坂 井 いつかは帰るし、何もお返し出来ないと思っちゃうんです。

明 神 そんな見返りを、村民達は期待していませんよ。

坂 井 役場の一階、ご覧になったでしょう。

明 神 ええ。思ったより若い人が大勢いました。

坂 井 あれが村の若者の殆どです。…何となく、わかりますでしょう。

明 神 ……若い者同士が、出会う場になっているということでしょう。

坂 井 この村の皆さんは妊婦さんを天使を拝むような目で見てはるんです。御高齢者の寿命は仕方ないので、その分出生率を上げようと努力してはります。

明 神 人口の増加は、村の最重要課題ですから。

坂 井 私みたいなものでも、結構モテるんですよ。

明 神 ……あ……ひよつととして……それがちよつと、迷惑だということですか。

間。

坂 井 ……。

明 神 嫌なら、きっぱりと断るべきですよ。

坂 井 なかなか、そうもいかないんです。みんな知った顔ですし、あんまり誘いを断ると、顔を合わせにくくなりますでしょう。これだけ狭いと。変な噂がたっても困りますし。

明 神 女性がそのようなストレスを感じるのには、都市部では許されないことです。それは一種のハラスメントです。

よ。改善するよう伝えます。

坂井 若い人は皆さん、結婚相手を探してはりますから。

明神 あなたがストレスを感じるのはよくありません。

坂井 村民に、人との触れ合い方を変えろ言うことになりませんか。

明神 移住者は、村の外から来るんです。村の今後の為にも、そういった問題を知っておく必要があります。折角移住をしてくれた方々が、あなたと同じ思いで悩んで欲しくはないでしょう。

坂井 ……確かに、そうですね。

明神 村の未来を考えるなら、改善するべきです。

坂井 ……有り難うございます。少し、気持ちが楽になりました。

明神 そうですか。

朝倉が戻って来る。

朝倉 明神さん。すみません、お待たせいたしました。

明神 ああ、はい。じゃあ、ちよつと行ってきます。

坂井 あ、私も役場に戻りますので。

明神 はい。ありがとうございます。では。

坂井は会釈をする。明神は去る。

坂井 私も行きますね。

朝倉 あ、じゃあ、電話するね。

坂井 ……あの、それなんですけど。

朝倉 何。

坂井 やっぱり、今日はやめときます。

朝倉 え、何で、どうして。映画嫌い。

坂井 そうじゃないんですけど、その……あんまり、朝倉さんに期待させると、逆に申し訳ないことになってしま
いそうやから。

朝倉 なんちゃあ。そんなの、気にせんでええのに。

坂井 こっちが、気になるんです。……御免なさい。

朝倉 そう、うん。わかった。

坂井 じゃあ、また。

朝倉 うん、また。

朝倉は手を挙げて挨拶する。坂井は去る。それを見つめる朝倉。現場に去る。明かりが変わる。転換。

第四場

現在の和田家。

座卓に座っている明水に茶を差し出す。

明水 ちよっと美樹さん、まっこと。

美樹 ええ。

明水 ほんなら、村議会では、村民総会にするなんちゅうんは、なんちゃあ話し合われてないがですかえ。

美樹 基本は、議会を存続させる方向で話しゅうみたいですよ。

明水 それがおかしいがよ美樹さん。今日本中の人が、大川村が村民総会になるかどうか注目しゅうがやる。

美樹 父はそう言いゅうがです

明水 ほんなら、何であんな記事が出ちゅうがですか。

美樹 以前、議員さんの一人が、議会でそういうことを話したことはあるがですよ。ただ、村長さんも他の議員さんも、なんちゃあそういう気はないみたいで。

明水 ほんで、村はどうするつもりながですか。

美樹 今は、給料が安いし、議員の兼職兼業を話し合いゅうがやなかったがですかね。昼間仕事して、夜議会を開くゆう話をしゅうがです。

明水 ああ、給料は15万5000円かなんかやろう。

美樹 はい。

明水 それで議員の仕事しかしたらいかんがやったら、若い人もなりたがらんわねえ。

美樹 何でそんな話を。

明水 いや、さつきね、その記事を書いた人とたまたま会う

たがです。

美樹 へえ。

明水 それに、母もね、気にしゆうがです。

美樹 恵さんが。

源の声 ただいま。

美樹が玄関へ向かう。

美樹 あんた、お義姉さん来ちゆうで。

源の声 おう。

源がやって来る。

明水 久しぶり。

源 どうしたがよ。急に來て。書類やったら送ってきいや。

美樹 お父さんに話があるがやって。

源 栄治郎さんに。何の。

と源は座る。

明水 あんたのお母さんのことながよ。ここに住所と名前、

あとここに署名して判子。これが新しい保険の内容。

とパンフを差し出す。源は書類に署名する。

源 栄治郎さんは。

美樹 朝から畑に行っちよって汗かいたき、お風呂に入りゆ

う。

源 そうながや。

明水 どういうつもり。お母さんにちいとも顔見せんと。

源 俺は……捨てられたきのう。

美樹 そんな言い方せられんろう。

源 ほんまやき。

明水 捨てたがは、あんたの父親やき。あんたは関係ないき。

源 ……親父の葬式にも来んかったきのう。元気にしゆう。

明水 うん、施設の人とも仲ようやりゆう。

美樹 何処かで会いに行こうや。私も行くき。

源 おう。

明水 そうや、あんた、新聞社の取材受けんかえ。

源 何の。

明水 こん人が、林業やりゆう人探しゆう。

と名刺を渡す。

源 うん……（ポケットから名刺を出す）会うたがよ、さつき。

明水 嘘、何処で。

源 山の上の、堰堤の工事現場で。

美樹 え、もう工事しゆう。

源 （頷く）

明水 嫌なら断ろか。

源 ちいとなら。

明水 連絡するわ。

源 （書類を見せて）これでえい。

明水 ……はい、有り難う。

源 は手ぬぐいを頭に巻き、工場に去ろうとする。

頭をバスタオルで拭きながら栄治郎がやって来る。

今、森林組合の切った場所を見てきました。

栄治郎 売りもんになるが。

源 （首を振る）

栄治郎 ……阿呆じゃのう、あいつら。何の為に守を森林組合に入れたがかわからん。

源 は工場に去る。

美樹が去る。

栄治郎 御免ねえ。お待たせして。

明水 ご無沙汰しています。それより、議会で村民総会のこ

とは話しよらんがですか。

栄治郎 あんなもん、出来るわけないが。

明水 実は、私もそう思うちよりました。こればあ年寄りが

多いがですから。集まろうにも集まれんがでしょう。

そんな話を議会でしゆうやったら、まっこと阿呆らし

いと思うちよつたがです。

栄治郎 あれをゆうた人は、ちいと変わりもんやき。村長さん

も、どうにも議員の立候補者がおらんかったら、それ

も検討せんといかんちゆうたがやけど、そりゃあそん

変わりもんを黙らせる為の、ただの方便やき。だあれ

も、そんな阿呆らしいこと考えてないがよ。

明水 ほんなら、新聞社の人らあは、その議会でのなんちゃ

あない発言を、わざわざあんな大きな記事にしたがで
すか。

栄治郎 新聞記者も、村の内部のことはわからんがよ。

明水 それ抗議した方がえいですよ。間違っちゅうつて。

栄治郎 俺も言いたいことはあるがよ。

明水 何で言わないんです。嘘の記事書いて、日本中に村の
議会在こんな阿呆なこと考えてますゆうて、さらしも
んにしちゆう。村を馬鹿にしゆうがです。

栄治郎 そんな通りや。けんど、そのおかげで村は注目されゆう。

明水 そんな変わりもんは、それを計算しちゆうがよ。

けんど、村民総会やなんて、聞いただけでも恐ろしい
て、母も言いゆうがです。

栄治郎は暑いのか、ズボンの裾をまくる。

美樹が戻って来る。かりんとうを袋に詰めていく。

明水 昔はよう公民館に集まりよったき、その名残りやて。

栄治郎 ……ダムのときの話やろう。

明水 ……そんな傷。

栄治郎 ああ、昔、イノシシによお。あなたのお母さんに助け
られたき。

明水 聞いたことあります。二度と鉄砲には触りたくない言
いよりました。

栄治郎と明水は笑う。

栄治郎 あんた、益々若い頃の恵さんに似いてきゆう。

明水 そうですか。

守がやって来る。

守 姉ちゃん、腹減った。

美樹 いつもやなあ。

守 (明水に) ああ、いらっしやい。

栄次郎 お前らあ、山をしっかりと守れや。

守 わかっちゆうが。けんど、山の地主さんらあは、木を
売ってお金にしたがっちゆう。出来ることと出来んこ
とがあるき。風呂湧いちゆう。

美樹 うん。

守 入るき。

美樹 守、美樹の作業場からかりんとうを摘まむ。
売りもんやき。

守は去る。

源が、電ノコで木材を切る音。

明水 ……実は、離婚しまして。

栄治郎 うん、源から聞いちゅう。引っ越しがどうのこうの。

明水 南海トラフ地震が、いつ来るかわからんがでしょう。

栄治郎 そうらしいのう。

明水 東北や、熊本のことを見よったら、明日は我が身かもしれんがです。

栄治郎 それで、北に引っ越したい思いよったが。

明水 前の家は南やき、海に近いがです。津波が来たら、ひとたまりもないがですよ。元旦那は、堺町に近い方がえい言いよったがですよ。それで揉めたがが最初です。両親も離婚しちゅうき、私は絶対せんと思うちよりました。どうしてこうなったがやろうか……血いすかね。

栄治郎 高知は離婚率が高い県やき。その分、女性が自立しちゅう。

明水 ……ですな。

栄治郎 ……で、恵さんの、何を聞きたいが。

明水 今、施設に預けちゅうがですけど……もしかしたら、母はこの村で、余生を過ごしたいと思いうがやないかと。

栄治郎 どうして、そう思うが。

明水 村のことをいっつも気にかかけちよります。いっぺん、寝言でもゆうてました。村に帰りたいつて。

栄治郎 ……そうか。

明水 けんどあの人、結局この村を出てから一度も帰つちよらんがです。

栄治郎 流が、恵さんと離婚した後、源を連れて村にもんて来ちよったろう。そいが関係しちゅうがやないろうか。二人の仲は、険悪じゃったち聞いちゅう。流は結局、市内での暮らしに馴染めんかった。

明 水

父は、酒とパチンコに溺れてしもうちよったがです。それに、もう亡くなったやないですか。母は、父の葬式には出たくなかったがですけど、一昨年、公子さんのお葬式にも出んやったし。友達のお葬式ぐらい出たらええやないですか。……そこまでして帰りとうないがは、何か理由があるがですか。

美樹と栄治郎は顔を見合わせる。

栄 治 郎

……人それぞれ、思いがあるき。

明 水

……母は、村の人間は心が狭いって、ずっとゆうちよりました。

栄 治 郎

……お母さんが、村民は心が狭いゆうなら、そいはいでええけど、村はダムが出来て、無茶苦茶になってしもうたき。

明 水

栄治郎さんらあの気持ちはわかります。けんども、村全体が反対しちゆうときに、母は自分の意見を持つちよったがです。村が足並み揃えろ言いゆうときに、それは窮屈や思いよったがです。個人の自由が守られてない思いよったがです。いろいろ思いはあるでしょうけど、自分の意見を持つちよった母は、立派やったと思えます。

栄 治 郎

……あなたは娘やき。……けんども、俺は、そうは思わん。……申し訳ないが。

明 水

……栄治郎さん、母のこと、今でも憎んじゆうがですか。

栄 治 郎

とんでもない。命の恩人やき。帰ってきたかったら、いつでも帰ってきい、ゆうちよって。

明 水

……母は、四国の人間みんなの幸せを願っちよったがです。水がなかったら生きていけない人らあの為に、誰かが犠牲にならんといかんかったがやないですか。

栄 治 郎

それが、こん村である必要はないちや。

明 水

栄治郎さん、そういうところですよ。母が気にいらんがは。自分のことばかり考えゆう。

栄 治 郎

……俺にゆわせるとなあ、恵さんの言う、みんなあの幸せの為に自分が犠牲になるゆうがは、おかしいち思

うがよ。

明 水 何ですか。

栄治郎 自分の首は、自分で守るものやき。

明 水 ……はい。

栄治郎 この村では、それが当たり前やき。あんたのお母さんやつて、イノシシを殺したがで。

明 水 それは昔の話です。一人の幸せより、多くの人の幸せを願うのが、そんなにかしいことですか。

栄治郎 ほんなら、沖繩の辺野古や高江の住民は、国が推しすすめゆう米軍施設を、黙って受け容れる言いたいが。

明 水 それは……。

栄治郎 それとおんなじよ。ダムはなあ、俺らあの存在を否定したき。こん村と村民全てを否定したがよ。……だからのう、みんなあの幸せの為に、自分を犠牲にするゆうがは、嘘をつきゆうことになるがやき。

明 水 嘘。

栄治郎 自分が不幸になるがは、一体誰が助けてくれるが。……今この村の人口が減ったがは、白滝鉦山の閉山とダムのせいやき。それを誰も助けてくれんがよ。国も、あんたらあ市内の人間も。

明 水 あたしらあ市内の人間に何が出来るが。ダムは国が作ったもんやき、大川村の現状は国が何とかせんとおかしちや。何で国に助けを求めんが。

栄治郎 国の連中が俺らあの首を守ってくれるはずないろう。見捨てることはあつても、助けるゆう阿呆な話はないで。

明 水 諦めたらいかんちや。

栄治郎 あんのう、大川村に流れちよった川の水を、突然四国全体のものにせえち国はゆうたがよ。ほっちよくと、村の財産を奪い取るが国やきのう。

明 水 おんちゃん、ダムのことと国を憎み過ぎちや。ここまで人が減ったら村だけでは何も出来んろう。国とか、県とか、行政に助けてもらわんと。

栄治郎 ……あんたものう、恵さんとおんなじちや。

明水 はい。

栄治郎 嘘をつきゆう。

明水 嘘なんかついてないが。

栄治郎 あんたは南海トラフ地震が怖いき引つ越したろう。国があんたを助けてくれるらあ思うてない証拠ちや。大地震が来いてあんたは助かるかもしれんけど、他人が不幸になるがは、一体どう思いゆうが。あんたも、自分の首だけが助かれればえいち思いゆうろう。……他人の不幸は、誰も助けんがが人間ゆう生きもんやき。……。

明水 ……。

栄治郎 そんなに村を心配してくれるがあはありがたいけど、ほんならあんたが助けてくれんかえ。

明水 私に何が出来るがですか。

栄治郎 こん村に住んでくれるだけでえいき。

明水 市内での暮らしに慣れちゆうあたしには、ここでの生活は無理やき。

栄治郎 そこよ。自分は助けんで、国に助けろゆうがは、嘘をつきゆうがやろう。

明水 ……そんな通り……かもしれません。

栄治郎 それがこん村に住む人間の思いちや。それが明水さんにとつて嫌なら、それはもう、しようがないき。

源 源が工場から顔を出す。

栄治郎 栄治郎さん、ちいと見て貰えませんか。えいよ。

明水 ……栄治郎は工場に去る。

明水 ……何も言い返せんがです。……ずっと、母の言い分が正しい思いよりました。

美樹 明水さん、父は、そのう、恵さんを嫌いゆう訳ではないがです。

明水 嫌いゆうろう。わかちゆう。

美樹 そうやないがです。……今やから話しますけど、どつちかゆうたら、死んだ母の方が……恵さんを好いてなかつたがです。

明水 ……公子さんが。……何で。

美 樹 ようわかりませんが、恵さんも昔、ダムが出来るのには反対しちよったって言いよりました。

明 水 母が……嘘でしょう。

美 樹 ほんまです。

明 水 そんなはずないですよ。あんなにダムは必要やった言いよった人が。

美 樹 確か、恵さんが父を助ける為にイノシシを撃った頃は、例の、村役場が出来ることを聞いた日らしいがです。その時は、確かに嬉しかったはずやあゆうちよりました。

明 水 美樹さん、それは多分あれですよ、母も村のみんなあからのけ者にされんよう、外面で、反対やあ言いよっただけながやないですかね。

美 樹 そうかもしれんがです。ただ、うちの母の話やと、恵さんはあるとき突然、ダムに賛成やあ言い出したらしいです。

明 水 やき、母も前から思っていた本心を、とうとう言いとくなつたがやと思えますよ。それで、村から追い出されたがです。

美 樹 明水さん、恵さんは自ら進んで村を出たって聞いています。恵さんの方が村を見捨てたって、母からそう聞いてちよります。

明 水 え、ちよう待ちや。ゆうてることが全然違うき。

美 樹 うちの母の言葉が、どればあ正しいかわからんがですけど。

明 水 ……私、何もわかつちよらんかったかもしれんちや。

美 樹 え。

明 水 例の新聞記事のこともそうやし。……事実と全く違うことを……言われたまんま鵜呑みにしてきちゆうだけかもしれんが。……ごめんなさい、帰ります。

美 樹 明水が立ち上がる。

明 水 泊まっていくんやないがですか。

美 樹 母とよう話してから、もっかい来ます。すんません。あんだあ。あんだあ。

明水 もう、えいです。失礼します。
美樹 ……。

明水が去る。
明かりが変わる。
轉換。

第五場

昭和39年。田んぼの付近。

田植えをする流と若き栄治郎と公文。

仲間割れ。公民館の話し合いでかえ。

栄治郎 おう。本山町と土佐村でダム建設の調査が進みゆうがやき、おんしゃあと同じ水没地域に住みゆうもんのの中に、ダムは国の事業やき、止められんち弱気になつちゆうもんがおるがよ。

流 ほんなら、その人らあは賛成するがかえ。

栄治郎 いや、一応反対やあいゆう。

流 何や、一応て。

栄治郎 一応は一応や。

流 そんな反対の仕方があるがかえ。

栄治郎 確かあ、弾力性のある反対運動をしたい言いゆうみたいやき。

流 弾力性のある、それどんな反対。

栄治郎 村長さんや親父らあの反対同盟会は、建設省や水資源開発公団の連中と話もせんがやろう。やき、仲間割れした人らあは、別の団体を作つてのう、公団の人らあと話し合いをもつて、反対する言いゆうらしいで。

流 阿呆やのう。話なんか聞いたで、反対は反対やろう。それ何の意味があるがで。

栄治郎 知らんちや。こんなんでえいが。

流 おう、ぼつちりや。すまんのう。たいちやあうもうなつたの。

栄治郎 毎年やりゆうき。

流 よっしや、休もうや。向こうで恵が飯用意しちゆうき。

栄治郎 おう。

流 公文さんも、休んで下さい。

公文 あ、はい。

流 公ちゃんも。

公子 はい。

栄治郎 おお、見てみい流。こつから新しい村役場がよう見えるちや。

流 おう。

栄治郎 何べん見ても飽きんのう。

流 立派やのう。

公文も役場を眺める。

栄治郎 鉄筋コンクリートやき。

公文 まつこと嬉しいちや。あの役場があれば、うちらあの家もなくならんで済むがですよ。

流 まつこと。さあさあ、向こうで飯食うて下さい。

公文 はい、いただきます。

流 栄治郎も。

栄治郎 おう。

公子がやって来る。

公子 メグちゃんの飯はたいちやあ美味いで。

四人が去ろうとすると、別役がやって来る。

別役 岡林さん。

流 別役さん。

別役 こんにちは。……（公文に）ああ、こないだは、どうも。

公文は会釈をする。

流 ……先行つちよって。

栄治郎 おう。

栄治郎と公子、公文は去る。

流 ちいと来い。

別役 はい。

栄治郎は別役を離れたところに連れて行く。

流 おんしゃあ、どういうつもりや。

別役 はい。

流 こん村には来るなあゆうたろう。

別役 すみません。これも仕事ですき。あの、これ、カレン

ダーです。宜しかったら。

流 いらん。

別役 まあ、そう仰らずに。

流 間にあっちゅう。

別役 ええ、そうやないかと思ひまして、タオルも持つてき

ちゆうがです。これ、どうぞお納め下さい。

流 いらんち言いゆうろう。こん村はダムには反対しゆう

がよ。二度とこん村には来んとつて。

別役 最初は皆さん、そう仰いますき。

流 あ。

別役 土佐村の水没地域にお住まいの皆さんも最初はそうで

したきに。ですが今は考え方を変えてですね、皆さん

個人補償の交渉をするおつもりです。まもなくわかる

がですけど、なんでも国は最高補償を用意するゆう話

です。

流 土佐村は、ダムに賛成しゆうがやけど、大川村は断固

反対やき。

別役 勿論、わかっております。

流 やったら、何でそんな話をするが。おんしゃあ頭おか

しいが。

恵がやって来る。

別役 ですから、こないだも申しました通り、大川村がダム

に賛成したあかつきには、で結構ございます。その際

は、是非私どもの銀行に。

賛成はせんち言いゆうろうが。

流 あんた。

別役 ああ、奥様、どうも、こんにちは。

恵 (会釈をする) はよ食べてや。

流 今行くき。

恵 別役さん、でしたかねえ。

別役 はい。

恵 大変申し訳ないがやけど、今田植えの時期やき、こん村は忙しいがです。

別役 ええ、お仕事の邪魔をするつもりはございません。

流 邪魔になるがよ。

恵 あんたもお仕事で来ゆうろうけど、ダムは出来んき。

別役 ええ、今のところは。

流 これから先も、ずーっとや。

恵 あそこに新しい村役場も立っちゅうでしよう。あれを水の中に埋めよう言うがですか。そんな阿呆な話がありますか。

流 そんな通りや。

別役 あのう、皆さんは何故ダムに反対しゆうがですか。

流 決まっちゅうろうが。俺らあの田んぼを取られん為や。家を取られん為やあ。

別役 ですから、国はそれ相応の補償をする言いゆうがでしよう。

恵 田んぼはですねえ、長い時間と労力をかけて出来ちゅうがです。うちらあの親やお爺ちゃんお婆ちゃんから受けついじゅう大事な大事な土地ですき。

別役 その通りです。ですから、個人補償の査定では、家や山の木より、田んぼが一番高いんです。

流 高い安いの問題やないが。俺らあ親から、何があつても田んぼだけは守れ言われちゅうがよ。

恵 そうながです。

別役 あの、私は建設省でも公団の者でもないがです。反対する言葉は、あちらさんに投げかけた方が効果がありますよ。

恵 ……効果。

流 何の話や。

別役 そのう……皆さんの反対しゆう理由は、全部わかつちよります。

流 ほんならもう帰りや。

別役 待って下さい。私も皆さんと同じ一般人ですき。私は

皆さんの味方ですきに。

惠 あんたはダムが出来る思いゆうがでしょう。

別役 ですから、私にそれをゆうても無駄ですき。どうぞ、公団の方に話して下さい。

流 おんしゃあ、何の話しゆうが。

別役 私には、ぶっちゃけて話して下さいよ。皆さんがダムに反対しゆうがはですね、結局、補償金の金額をつり上げよう思いゆうがでしょう。

流 ……はあ。

惠 違いますよ。うちらあの財産と、先祖から代々受けついじゆう大川村の自然が壊されるのが嫌やき。

流 ほんまで。

別役 ですけど、新聞にはそう書いちゆうがですよ。

流が別役の新聞を見る。

流 これは大川村のことやないき。

別役 新聞が嘘を書いちゆうがですか。

惠 新聞が嘘を書くわけないろう。ほら、ここに土佐村の住民が書いちゆうやんか。大川村の話やないちや。

別役 ですけど、私がお邪魔した土佐村の水没地域の皆さんの中には、大川村の水没地域の皆さんと一緒に手を組んで、国を相手に個人補償の交渉をやりたい言いゆう方もおられましたよ。そういう話はされてないがですか。

流 なあ。大体のう、個人補償ゆうのは水没地域の人間だけやろう。大川村は、村を上げて反対しゆうが。個人補償に關係ない人間も皆反対ながちや。

別役 それは、あれですよ、ダムが出来たとしても、水力発電などの交付金言いますか補助金がですね、ダムの住所になる本山町と土佐村にだけ下りて、大川村には一円も下りんからじゃないがですか。

流 あ。

惠 ……ほんなら…うちの村は…その交付金だか補助金だかをせびる為に…村をあげて反対しゆう、言いゆうがですか。

別 役 あれ……確か、その為に、毎晩村のお年寄りらあが公民館で話し合いゆうがでしよう。

恵 ……そんな話、聞いたことあるう。

流 なあい。そりや関係ないちや。

別 役 公民館で何を話しゆうか、聞いちよりますか。

恵 いいえ。話し合いには若いもんは参加出来んがです。

別 役 そうながですか。ですが、新聞を読む限りはですね、大川村のえらいてさんらあは、ずっとその話をしゆう思うちよりました。

恵 ……。

流 そんなこと新聞に書きちゆうが。

別 役 いえ、新聞社の方は会議に参加してないですき、内容は書いてないがですけど、普通にそう読めますよ。

流 そりやおかしいで。

恵 ちよう待ちや。村の中におるき、そう思うだけかもしれんがよ。つまり、村の外の間人間が読むと、そう読めるいう話ですね。

別 役 ええ。そもそも、個人補償を貰えないお宅がダムに反対する理由を考えますと、村にお金が下りるくらいしか、想像はつきませんけどね。

恵 よう考えると、そうながって。
流 ありえんき。

恵 けんど、もしそうやったら、公民館の年寄りらあは、将来的にダムが出来ることを受け容れるつもりながちや。どうするが。田んぼも取られるちや。

流 信用しいや。役場だつて建ててくれたろうが。

別 役 あ、役場を造ったのはですね、その土地と建物を、国が買い取る際にですね、より高額な金額にする為やないがですかねえ。

恵 ……ああ……。

流 おんしゃあには騙されんきのう。

別 役 ですが、お話を聞いていますとね、岡林さんらあは公民館でのお話し合いの内容がわからんでしよう。奥様、もしかしたら、騙されゆうがは、岡林さんらあかもし

れんがですよ。

恵 どういう意味ですか。

別 役 え、だって、あれ、そんなの簡単な話ですよ。水没地域の皆さんには個人補償が下りるがでしょう。そりやあ他の地域の人はあは、面白くないがでしょう。

流 そんな、百万、二百万もろうたち、新しい田んぼは作れんちや。

別 役 (笑って) 岡林さん、そんな金額じゃありませんよ。
流 あ。

別 役 聞いてないがですか。土佐村ではですね、これぐらいの田んぼの規模ですと、最低でも八百……いや、一万ぐらいは貰えるという話をしゆうがです。

……い。

恵 いっせん……まん……。

別 役 ええ、大卒の初任給が二万一千なんぼのこのご時世で、どればあ大きい家を建ててもですね、半分以上は余裕をもつて残るがです。それを、是非私どもの銀行にいう話ながですよ。

恵 ……そんなに……貰えるがですか。

別 役 勿論、今国が予定しちゆう金額は恐らくその半分ぐらいですがね、まだこの金額は本決まりじゃないがです。なあに、最初は安く見積もるいうがは、どの世界でも当たり前のことです。これから交渉すれば、必ず、それぐらい貰えるようになります。土佐村の水没地域の皆さんは、国相手に強気の交渉をやるいう話で纏まりゆうがですよ。要求した金額を貰わんと、土地は渡さん言いよります。なんせ、家と土地を国に取られるがは、絶対的に立場が強いですね。国は土地を売ってもらわんと何も出来んがです。せびれば、いくらでも出て来るはずですよ。(時計を見て) あ、そろそろ失礼せんと……あの、これ、納めていただけないでしょうか。

とタオルを差し出す。何となく受け取る恵。

別 役 ありがとうございます。そいじゃ、失礼します。

別役去る。

恵 ……こんな、山奥のど田舎の田んぼが……そればあ大きな金になるが。

流 ……何かの間違いやろう。あの立派な村役場にかかったお金が、全部で千五百万いう話やき。うちの田んぼが一千万いうがはおかしいちや。

恵 聞いたろう。あん人、うちらあ水没地域の住民を、立場が強いゆうよつたやんか。うちらあ、家も田んぼも取られるき、立場の弱い人間やあ思いよつたろう。真反対やき。

流 そこが、ようわからんが。市内の人らあは、先祖から受け継いだ土地を手放すいうがを何とも思わんがやろうか。俺らあ、ここがのうなつたら先祖に顔向け出来んろう。

恵 多分よお……人より……お金が大事ち思いゆうがやないやろうか……。

流 それは……ひどいにやあ。
恵 ……ほんまにひどいかえ。
流 うん。

恵 一千万もあつたら、うちらあ一生遊んで暮らせるがよ。そりやあのう……（首を振って）いやあ、ひどい。そりやあ先祖に申し訳ないで。

恵 よう考えてみい。そればあお金があれば、こんな田んぼ仕事をせんで済むがで。

流 ……おまん……何言いゆうが。

恵 あん人の言う通り、村はお金欲しいき反対しゆうがやつたら、うちらあ水没地域のこと何も考えてないゆう話ながよ。ほんならダムはいつかは出来るちや。そういう話になつちゆうかもしれんき。

流 村は俺らあを守ってくれるろうがえ。

恵 騙されゆうかもしれんき。……ほんまにダムが出来るなら、うちらあ、一円でもようけ貰う方がえいがやないが。

流 ……確かに……そうかもしれんろう。

恵 そうよ。
流 ……けんどのう、村は今反対を掲げゆう最中やき。こ
ん話を人前でせんでくれ、頼むき。
恵 何言いゆう、あんた。外面は反対言いよらんと貰うお
金は高うならんやんか。
流 おう、そうやのう。
恵 まずは、村のえらいてらあに内緒で、水没地域の人ら
あで話すがよ。公文さんにも言わんと。
流 内緒でのう。
恵 徒党を組むがよ。
公子 恵は黙る。栄治郎と公子がやって来る。
公子 メグちゃん。
栄治郎 ご馳走さーん。
恵 はあい。
栄治郎 美味かったで。
公子 やっぱり大川で穫れたもんが一番ちや。
恵 そうやろう。
恵 恵は去る。
公子 ごめん。ほんならうち、もうえい。
流 おう、ありがとう。
公子 じゃあ、いぬるで。
栄治郎 おう。
公子は去る。
栄治郎 おんしゃあ、飯はえいが。
流 おう…ちいと、食欲がないのう。
栄治郎 何でえ。
流 ……うん…。
栄治郎 どうしたが。
流 ……おんしゃあ、俺になんか隠しちゆうことないかえ。
栄治郎 何を。
流 ……いや…おんしゃあが友達やき話すけんどのう。
栄治郎 おう。
裕信 おんちゃんらあ、ほんまにダムに反対しゆうがや
ろうか。

栄治郎 何でえ。

流 ほんまは、国と交渉したいき、反対しゆうがやないが。

栄治郎 何の交渉かえ。

流 お金よ。ダム補助金が村には一円も出らんき。それが欲しいがと違うが。

栄治郎 いやあ、そりや関係ないで。

流 ほんまか。

栄治郎 ほんまよ。ダムが出来たら、役場も、公民館も学校も、村の中心が皆沈むがよ。そんなことになったらこん村は終わるき。

流 ほんまの話か。

栄治郎 ほんまちや。

流 ほんなら、おんちゃんらあの話しゆう内容が、何で俺らあにはおりてこんがで。

栄治郎 そりやあいろいるあるがやろう。

流 ほんまか。ほんまに、何も知らんがかえ。

栄治郎 何やおんしゃあ、しつこいのう。何でいきなりそんな話しゆうがで。

流 ダムを造ることに賛成する話があるがやないがか。

栄治郎 はあ。阿呆かおんしゃあは。

流 ほんまは、俺らあ水没地域の人らあを見捨てるゆう話をしゆうがやないがか。

栄治郎 してないが。

流 ほんまか。ほんまにほんまか。

栄治郎 (胸ぐらを掴んで) えい加減にせえよ。いくらおんしゃあでも、村のえらいてさんらあを侮辱するがあは許さんで。

流 …… 離しい。

栄治郎 謝れ。

流 …… 何でおんしゃあに謝らないかんがよ。

栄治郎 ……

栄治郎は乱暴に手を離す。恵が戻って来る。

流 公文さんは。

恵 ちいと家に帰るゆうて。

流 そうながや。

恵 栄治郎さん。

栄治郎 あ。

恵 今、公文さんと話しよったがやけど、もしかしたら、いつまでもダムには反対出来んかもしれんがよ。

栄治郎 ……何でえ。

恵 本山町では道路の工事が進みゆうろう。国がやりゆうことを、こんな小さな村だけで反対するゆうがは無理かもしれんき。

栄治郎 ……どうしたがで……何で突然そんなことゆうが。弱気になったらいかんちや。土佐村も合意しゆうこんときに、今こそ村をあげてダムに反対せんとお、ほんまに何ものうなるでえ。それでもえいがか。

……よくはないがよ。ねえ。

流 恵 ……おう、ダムがえい訳ない。反対は反対や。一応のう。

栄治郎 ……一応。……おんしゃあら、正気か。

流 何があ。

栄治郎 何でそんなことゆうがで。ほんまにダムに反対しゆうがか。

流 しゆうがよ。のう。

恵 そうやで。

栄治郎 一応反対ゆうがは、どんな状態のことを言いゆうが。一応と反対は混ざり合はんき。それ絶対おかしいろう。さつきおんしゃあも、そんな反対の仕方はないちゆうたろうが。

流 ゆうたか。

栄次郎 ゆうたろう。阿呆やあゆうたろう。俺あこん耳ではつきり聞いたで。

流 もう忘れたちや。

栄治郎 こん、どあほう。

流 ……帰ってや……今日はもう、しまいじやあ。

栄治郎 何でえ。苗はまだ残っちゆうが。

流 ……こん田んぼは……どうせいつかはのうなるき……

収穫出来ん苗を植えてもしようがねえちや。

流と恵は去る。それを見つめる栄治郎。

明かりが変わる。

転換。

第六場

現在。

村役場の二階。ソファに座る明神と栄治郎。

栄治郎　そうして、村は断固反対の同盟会と、交渉したい同志会のまつ二つに割れたちや。

明神　そうですか。

栄治郎　けれど、村は水没地域の連中の意見も聞かないかんかったき。いよいよ昔の公民館に国や公団の連中が来たがよ。俺らあ若えもんは遠くから見よつたがやけれど、公民館の前にはちまきやらたすきをかけた親父らあ数十人のもんが取り囲んでのう、反対の声を叫び続けて会議を妨害したがよ。丁度、公民館の向かいに農協があつてのう、そこで反対しゆう連中がドラム缶を激しゆう叩いたきのう。会議は結局流会になつてもうたがよ。俺も若かつたけれど、いい大人があればあ熱うなつて、それぞれの思いがぶつかりゆう姿を見よつたら、人間の何たるか、ゆうがを思い知らされたがよ。……今でも、あんときの……ドラム缶を叩く音が忘れられんちや。

明神　それが、最初の話し合いですか。

栄治郎　……それから反対同盟会と同志会の二つがあると公団も交渉しにくいゆうて、一本化して欲しいゆう話があつたが。そのときにはもう、ダムを受け容れる空気が出来ちよつたきのう。

明神　何故です。

栄治郎　村の中のものからすると同じ反対ながやけど、村の外

から見るとのう、反対するものと交渉したいもんがおるき、断固反対ゆう立場が崩れてしもうたように見えたがやろう。大川村の態度が軟化したゆうて、新聞も書いちよった。

明 神
ですが、補償の話を始めたら、普通はダム建設に合意する前提だと捉えられるでしょう。村が、外からどう見られるかを考えるべきだったのは。

栄治郎
基本は、断固反対の態度を貫いちよったがよ。けど、村の民主主義を考えんどのう。水没地域には600人も住んじよったき。

坂 井
水没地域の方のお気持ちを尊重して話し合いはったん違います。

明 神
当時国は、大川村が完全に合意するまでは絶対にダム工事を始めない方針でした。当時の新聞を読むと、確かに村が合意して、着工をはじめています。補償の交渉などは、実に百回以上も繰り返されていきました。今の沖繩の状況を考えると、当時の政府の方がまだ民主的でした。

栄治郎
新聞が全てやないろう。

明 神
どういう意味です。

栄治郎
今の村長の、子供の頃の話は聞いてないが。

明 神
何ですか。

坂 井
ダムの建設が終わっても、村長さんのご家族は最後まで合意せずに、家を出えへんかったんやそうですよ。自分達が住んでる間は、絶対に水を溜めることはいやろうって、そういう抵抗を最後まで続けはったらしいんです。ところが、川下にダムの堰が出来たので、雨が降って水が溜まり出したんやそうです。川下で水を溜めんと流してくれはったら川が氾濫することもなかつたらしいんですけど、とうとう家の前まで水が迫ってきたらしく、慌てて炊飯器と、身の回りの荷物を風呂敷に包んで、逃げるように家を出たらしいですわ。

明 神
……そんなことが。

栄治郎
合意してない人間は死んでもえい、ゆう話ちや。……

明神 …… おんなじよ。国がやりゆうことは今も昔も。

朝倉がやって来る。

朝倉 翔子ちゃん。

坂井 朝倉さん。

栄治郎 おう晋、堰堤工事はどうで。

朝倉 ええ、もう半月ぐらいやりゆうき、進みゆうがです。丁度役所に用事があつたき、翔子ちゃんの顔見てこう思いよつたがよ。

坂井 わざわざすみませんねえ。

朝倉 えいえい。あ、メール見たあ。今日また俺ん家でよ、みんなで飲もう言いゆうき、翔子ちゃんも来いや。

坂井 ああ…。

明神 朝倉さん。

朝倉 はい。

明神 あんまり無理に誘うと、彼女も迷惑なのでは。

栄治郎 そうやぞ。ハラスメント言うがですか。それにならんよう、村長さんも、村に移住してくれちゆう人らあの気持ちを考えろ言いゆうろう。

朝倉 勿論それはそうながですけど、え、これもハラスメントになるがですか。

明神 本人が嫌がっていたら、そうなります。

栄治郎 そうながよ。

朝倉 え、そんなに嫌あ。

坂井 いえ、そんなことないですよ。

朝倉 ほら、翔子ちゃんだつてこう言いゆうがです。

栄治郎 そりゃあ、晋の前で言いくいこともあるろうがえ。のう。(時計を見て) すまん、これから会議やき。

明神 あ、はい。

栄治郎は去る。

朝倉 俺だけやないがです。うちの親もよお、翔子ちゃんに会いたい言いゆうがよ。

明神 朝倉さんねえ、親に会うというのは意味が出ますですよ。

朝倉 いや、あのですね、ここには居酒屋なんか一件もない
がですよ。こん村では誰かの家で飲むのが当たり前で
すき。ほんなら親に会わんことなんかないでしょう。
明神 はつきり言いますよ。彼女は迷惑しているんです。で
すから彼女を誘うのはやめて下さい。

坂井 明神さん。

明神 こういうことはちゃんと伝えないと。

坂井 迷惑じゃないんです。

明神 思っていることははつきりと言葉にして伝えないと。

坂井 ……。

朝倉 確かにハラスメントは良くない思いますよ。けれど、
ほんなら俺らあどうしたらいいですか。翔子ちゃん
は来年の三月には帰る言いゆうがです。俺翔子ちゃん
にはもつとこの村におつて欲しいき。

坂井 今度なあ、道の駅で、若い人集めて外の人たちと飲み
会やりたいって、村長さんをお願いしたんです。そし
たら是非やつて欲しいゆうてましたから。

朝倉 それはそれよ。俺は翔子ちゃんと飲みたいがよ。

明神 申し訳ないですが、あなたの行為はもうハラスメント
の域を超えています。ストーカーですよ。

坂井 明神さんやめて下さい。

朝倉 ほんなら、俺らあ女性をどう誘えば、ハラスメントや
ストーカーにならんがですか。

明神 本人の合意が必要です。

朝倉 本人はえいて言いゆうやんか。

明神 断れないんですよ。勿論彼女にも非があります。です
が、村のそういうところを改善しないと今後も移住者
がストレスを感じてしまいます。人口の増加につなが
りませんよ。

朝倉 やき、俺らあはどうすればえいかを教えてくださいよ。
明神 あなたからは誘わず、彼女の方から行きたいと言うの
を待ってれば宜しいじゃありませんか。

朝倉 それはおかしいでしょう。
明神 何処が。

朝倉 何でいつも、あんたらあ村の外の人間のルールが正しいゆう話になるがですか。

明神 モラルや倫理観は住み易さと直結しています。

朝倉 それはわかっちゃうがです。俺が言いたいのは、村に来たら、村のことも理解してもらいたいゆうことです。あなたこの前、その川で船出して、ブラックバスを釣りよつたでしょう。

明神 そういうイベントがあったので。

朝倉 あんなの、外から来た人間しか参加しませんよ。俺らあ村で生まれた人間は、水道が止まってもダムの水は自由に使えんがです。ダムで遊んだら怒られるがです。それがおかしいんです。村にあるダムなんですから、もつと有効に活用するべきですよ。村の外から大勢の人が集まる訳ですし。

朝倉 俺はダムが出来た後に生まれとき、そこまで拘りはないがですけど、親の世代はそういう考えにはならんがですよ、歴史的に。ほんまは釣りとかやって欲しくないがやけど、外の人間には言えんがです。村を気に入って欲しいですきに。

明神 そんな理屈は通りませんよ。ダムで遊ぶことを実際に許しているんですから。それはもうダムで遊ぶことに合意していることになりますよね。

朝倉 合意はしてないがです。俺らあ村で生まれた人間は我慢して、譲歩しゆうがです。

明神 それが、合意していると言っているんです。

朝倉 俺らあ村の人間が違うゆうてるのに、何で外の人間にとつては合意したいう話になるがですか。

明神 一般的にはそう思われるということですよ。

朝倉 それはそちらのルールでしょう。どうしてもわからんがですけど、あなたは翔子ちゃんがえいゆうことは合意してないと言います。村が合意してないことは合意している言いうがです。どうして外の人間にだけそれを決める権限があつて、俺らあにはないがですか。俺らあ村のことですよ。俺らあとあなたがたの間に、一

体何の違いがあるがですか。

坂井 朝倉さん、もうええよ。

朝倉 けんど。

坂井 行くから。

朝倉 ……ほんまあ。

明神 坂井さん。無理しなくていいんですよ。

坂井 本当に行きたいんです。……今のお二人の話聞いて、行きたいんやって、気づきました。

明神 はい。

坂井 ……私、大学の研究室で、人員削減の競争に巻き込まれてまして、友達やった人が、急に態度を変えてしまったんです。人間関係に疲れてまして、誰も知らないところでしたら、暮らそう思いました。この村の人は、本当にあつたかいんです。

朝倉 やき、ここにおつたらええがやないかえ。

明神 それは彼女が決めることです。あなたにそれを決める権利はありません。

朝倉 それはそうながやけど、ここにおつて欲しい気持ちを伝えるがはいけませんか。

明神 余計なお世話です。彼女の自由を奪うおつもりですか。

坂井 迷うてる私が悪いんです。

朝倉 何でえ、よう悩めばえいやん、ここで。その為に来たがやろう。

明神 あなたが悩ませているんですよ。まだわからないんですか。

朝倉 けんど、人間は悩む生き物やないですか。好きなだけ悩ませてあげたらえいがやないですか。

明神 他人の人生の邪魔をするなど言っているんです。

朝倉 翔子ちゃん他人やないがですよ。

明神 他人でしょう。村出身の人間ではないんですから。そこが違うんです。……ハラスメントって、立場や力の強いものが、それを利用して弱いものをいじめたり嫌がらせることでしよう。この人達は、外から来た人を、家族のように愛してくれはるんですよ。彼ら

が一体何の立場を利用してはるんです。

明神 人口が少ないという現状ですよ。それを利用して女性を口説くのは卑劣です。

朝倉 何でえ、嫌なら断ればえいやないですか。

明神 それが出来ない人もいるでしょう。

坂井 さっきの話、わかりませんか。彼らは、村の外から来た人間の方が、立場が上やと思うてはるんですよ。これは、ハラスメントにはなりませんよね。

明神 ……。

朝倉 (携帯を見て) 俺、そろそろ戻らんと。

坂井 うん、仕事終わったら連絡する。

朝倉 わかった。じゃあ後で。

朝倉は去る。

坂井 ……ここに来てわかったことは、私ら都市部の人間は、無意識のうちに、立場とか年収で、人を判断してたつてことです。それって結局、人には上下関係や序列があることを認めていますよね。ハラスメントは、不平等の社会だから起こるものなんです。……この村では、立場だとか、年収だとかで人を判断しません。村は家族で、外から来た人はみんなお客さんなんです。外の人間の立場を上を感じてしまうのは、村民達の中に、お客をおもてなししたいという精神が、宿っているからなんです。

明神 ……。

明かりが変わる。

転換。

第七場

昭和41年の和田家。

裕信 ……村を、出る。

流 ……はい。

公子 何でえ。

流 ……こいつと話して……その方が、えいがやないかと。

公子 そんな阿呆な言い方せられんろう。

恵 こん村は、もうダムに合意する方向で纏まりゆうろう。

裕信 俺らあ最後まで合意せんきのう。

流 村が合意したら、ダムの工事は始まるがです。田んぼ

はなくなりませすき。

公子 えいやんそれでも。村におったら。山の上に引越せ

ばえいろう。

栄治郎 そうで。出て行く人間は多いらしいき。村がこんな状

況のときに、何でおんしゃあらあまで出て行く必要が

あるが。

裕信 ご先祖様がおる土地やないがかえ。

流 あんな標高の高いところで、田んぼは作れんですき。

裕信 村を捨てて、何処に住むつもりなが。

恵 ……こん人と話して、市内に引越そう、思いゆうが

です。

栄治郎 市内。

公子 市内で田んぼ作るがかえ。

流 いや……田んぼはもうせん。

公子 それはおかしいろう。さっきあんた、村を出る理由は、

田んぼが出来んち言いよったやろう。

それもあるゆうことよ、公ちゃん。

栄治郎 ほんなら何するが。

流 まだ、決めてないがやけど、新しい仕事見つけよう思

いゆうがやき。

恵 ここにおっても仕事はないちや。

公子 何でえ。村でしか暮らしたことないもんが、他の土地

で暮らせる訳ないろう。

栄治郎 ほんまで。ダムのせいで、村の人口がどればあ減るか

わからんがよ。おんしゃあらあまで出て行くがか。

流 もう、決めたことやき。

裕信 村がどうなってもえいがか。

流 良くは、ないがです。

裕信 ほんなら、ここにおつたらえいが。絶対合意はせん。

俺らあダム反対を最後まで貫くきのう。

恵 裕信おんちゃん、村長さんも変わってしもうて、村は昔みたいに反対一本やりじゃないがですよ。村はもうじき合意しますき。

公子 ……その方がえいがやろう。

恵 何が。

公子 おまん…：ほんまはダムに賛成しゆうがやろう。

恵 ダムには反対よ。なあ。

流 そうでえ。

公子 あんたらあが補償の交渉をやれ言い出すき。あれから、この村がおかしゆうなつたがやないが。

恵 うちのせいかえ。

公子 そうよ。

栄治郎 公子、それは違うろう。流らあは家がのうなるがが怖かったがやき。メグちゃんだって不安になるろう。そん気持ちかわからんがか。

公子 けれど、こん女はダムに賛成みたいなこと言いよつたろうがえ。

恵 それは違うで公ちゃん。ダムには反対やけど、水のな地域の人らあのこと考えんなあ。

公子 この村の人間は、こん村のことだけを考えればえいがよ。

恵 (笑う) 公ちゃん、それはあんまりにも心の狭い考え方ちや。うちらあ小さな村で暮らしてきたき、世界の広さを知らんちや。そんなこと言いよつたら、村の外の人間から馬鹿にされるがよ。

公子 何でえ。

栄治郎 公子、メグちゃんの言うこともわかるろう。おまんと違うて、心の優しい人やき。

恵 あんなあ、香川や徳島の人らあは満足に生活も出来んがよ。水がなかつたら、人は生きていけんがよ。四国に住む人間、みんなあの幸せも考えんなあ。

流 まっことよのう。

裕信 おんしやあらあ、それを本気で言いゆうがか。

恵 ……勿論、本気ですよ。

裕信

……こん村がここまで繁栄出来たがはのう、山の森林を管理して、川の水を綺麗に保ってきたからじゃあ。川の美しい水は、神様がこん村に与えてくれた大切な財産やき。俺らあ林業に携わるもんは、水を綺麗に保つ知恵を、ご先祖様から代々受けついじゆう。ダムが出来たら、山の土壌があちこち脆うなって、川の水は間違いなく濁るき。そうなったら、俺らあ村民の生活だけやのうて、ずーっと川下の、徳島の人間だって困るろうが。川の水を綺麗に保つには、林業と関係しちゆうち、国の人間になんぼ話してもわかってもらえんがよ。あいつら水っちゆうもんを、自然っちゆうもんをなめちゆう。俺らあ、水を綺麗に保つ責任を持てち、親父らあから教わつちゆうろう。それが、川上に住むもんの宿命やき。礼儀やき。……やき俺らあも、川下に住む人間みんなあのことを考えて、ダムに反対しゆうがよ。

流 ……そうながですか。

論破された空気が満ちる。

恵 ……けんど、水が濁るかどうかは、まだやってみらんとわからんがやないがですか。

問。

公子 何でそんなこと聞くが。おまん、今のお義父さんの話

が聞こえんかったが。

恵 聞こえちゆうよ。けんど、造つてもないのに水が濁る

て決めつけんでもなあ。

裕信

俺らあにはわかちゆう。今でさえ、山の木を管理するがあ手一杯じゃあ。これ以上、山を切り崩してダムを造るとのう、自然のバランスがもつと壊れるき。それを管理する為には、ようけ人手が必要になる。ダムを造つたら、こん村の林業に携わる人間を増やさんといかんがよ。そん為には人口をもつと増やさんといかんがよ。けんど、そこまで国は考えちよらん。そ

れどころか、今はおんしゃあらのように、人がどんな出て行くとうとしゆう。そうなたら、こん村だけでは、どうにも出来ん状態になるがで。

恵 おんちゃん、そんなことゆうてる場合やないがです。香川の人はあは全く水が足りてないがですよ。

裕信 おまん、濁った水を、川下の人間に飲ませえゆうがか。ちいとくらい濁っちよつてもえいがやないですか。

裕信 俺は申し訳のうて、そんなことは出来んが。多少濁っちよつても、何ちゃあカルキゆう消毒のあれ、多めに混ぜちよつたらえいがやないですか。

裕信 あんな水が飲めるが。臭うて飲めんろうが。可哀想やち思わんがか。

恵 向こうは向こうでえいようにやりますよ。ないよりましですき。

裕信 おまん、それほんまに香川の人のこと思うちゆうがか。思うてますよ。

公子 思うてないろう。……心が狭いのは、おまんらあの方やないががえ。

流 何でえ。うちらあの何処の心が狭いが。

公子 偉そうなこと言いゆうけど……ほんまに村を出たい理由は……お金やろう。

恵 ……。お金になびいてしもうたがやろう。

公子 ……何がおいしいが。間。恵は大笑いする。

恵 (笑っている) 何がおかしい言いゆうろうが。

流 何でえ。そんな訳ないてのう。

栄治郎 俺もそう思う。流らあは、たかがお金ごときで村を出るような人間違うき。そんな言い方したらいかんが。

公子 ほんまのことやき。うち聞いたがよ。個人補償のお金はよお、こん村に残るもんより、外に出るもんの方が

百四、五十万上乘せされるらしいき。

間。

裕信 ……ほんまかえ。

公子 ほんまですよ。

裕信 おんしゃあらの土地は、一千万ちよつとの査定やなかったが。それやのに、まあだそん百四、五十万が欲しかったがが。

流 いや、あの…。

裕信 阿呆。どればあ欲を出せば気が済むがが。そんなのぼせた生き方しゆうと、ご先祖様に顔向け出来んろうが。恥を知れ、恥を。

恵 違うがですよ。金やのうて、四国全体のことを考えてのこと（ですきに）。

裕信 もうえい。話にならんが。会議やき、いく。（と立ち上がる）おんしゃあらあ、こん村を出て行ったら、二度と俺の前に面見せることは許さんきのう。よう憶えちよき。

裕信は歩き出す。後を追う流。

流 待つて下さい。裕信おんちゃん。…おんちゃん。

裕信 来るな。

流 誤解ですきに。おんちゃん。

と、裕信と流は去る。

栄治郎 ……御免な。気にせんとつて。親父はお金になびく人間が、嫌いやき。

恵 えいよ。おんちゃんも大変やろうき。

公子 凶星やろう。お金になびいたがは。

栄治郎 やめんか、おまん。友達にそんな言い方せられんろう。メグちゃんはなあ、人を助けずにはおられん人ちや。

公子 そんな人間やないで、こん女は。

栄治郎 山で、俺の命を助けてくれたちや。

恵 （笑つて）公ちゃん、ほんまどうしたが。さつきから、何でも噛み付いて。なあ。（笑う）

公子 おまん、あんまり笑わんでくれるかえ。

恵 （笑つて）あんたがおかしいこと言うき。

公子 おまんの笑い顔は、薄気味悪いが。

恵 はあ。

公子 ……おまん……鬼か阿修羅にでも取り付かれちゃう顔をしちゆうが。……うちや生まれてこのかた、そんな気色の悪い笑い顔を見たことないがで。

恵 気色の悪いがはあんたの方やき。

公子 その顔が嘘をつきゆう証拠ちや。お金で性根が腐ってしもうた顔ちや。

公子は恵の顔に唾を吐きかける。

恵 何するが。

栄治郎 やめんかおまん。

公子 何でこいつの味方するが。

栄治郎 メグちゃん俺の命の恩人や。悪い人やないがで。

恵 もうえいよ、栄治郎さん。この人にいくら言うてもわからんき。

公子 何や、そのいい方は。

恵 うちが氣い遣うて話しゆうのに、おまんはさつきから文句ばかり言いゆうろうがえ。

公子 おまんがおかしいき。

栄治郎 やめえ、二人とも。……座れ。

二人とも座る。

栄治郎 俺はのう、メグちゃん、もしダムが出来てん、こん村で、山の仕事をしたらえいち思いうがよ。林業を俺が流に教えちやるき。やき、こん村におつたらえいがよ。村を捨てんでくれ。頼むき。

公子 こん阿呆にゆうても無駄じゃあ。

恵 ……。

栄治郎 ……（溜め息、舌打ち）流の奴、遅いのう。何しゆう。

栄治郎は立ち上がって、去る。間。

恵 ……おまん、あれやろう、うちらあが個人補償貰えるき、僻みゆうがやろう。違うかえ。

公子 阿呆。おまんみたいな醜い顔にはなりとうないが。

恵 ああ、ああ、妬み嫉みゆうがはほんまに怖いで。可哀

想になあ。お金欲しゆうても貰えんがやろう。醜い顔

しちゆうがはおまんやき。

公子 やかましいわ。

公子は恵につかみ掛かる。

恵 何するが。

互いの手を掴んで揉み合う。

公子 おまん……ほんまえい加減にせえよ。

恵 何が。

公子 ……ダムは造らせんき。……おまんもお金なんか貰えんがで。

と公子は恵の首を絞める。恵は公子の手を掴み、必死ではがそうとする。

恵 ……そんなこと……させんき。

と恵は公子の腕を外し、這うようにして逃げる。追いかける公子。

公子 待て。

置いてあつた猟銃を取って振り舞わして応戦する。

恵 ふん……ふん……。

と恵が優勢になる。公子は台所に追いつめられて、たまらず包丁を握って振り回す。恵は慌てて離れる。

恵 何しゆう。

公子 おまんが叩きじゃ。

恵 先に手え出したんはおまんやろうが。

公子 やかましい。

恵 ……殺す気か。

公子 阿呆。

恵 ……ほんならそれ、下ろしい。

公子 おまんがそれ離すのが先じゃ。

恵 ……信用出来んが。

恵は突然、動きだし急いで側にあつた銃弾を取つて、猟銃に込める。

公子 おまん、何しゆう。……おい。……おい。

恵 黙れ。

と恵は公子に猟銃を構える。

公子 ……。

恵 ……おまん……うちを殺すつもりやろう。

公子 ……何でえ。

恵 ……うちがようけお金貰えるき。……大金持ちになるき。……あ、それともあれかあ……うちがお金もろうてから殺すつもりかえ。

公子 ……気狂いか。

栄治郎と流が戻って来る。

栄治郎 メグちゃん。

恵 来んじよって。

流 おまん……何しゆう。

近づく栄治郎と流。恵は猟銃を向けて威嚇する。

止まる二人。発砲する。

栄治郎 ……何で銃を人に向けるが。……メグちゃん。あんた、

俺を助けてくれた人やないがね。……人の命を大切に
する人やないがね。

公子 イノシシやろうが人間やろうが、生きもんを簡単に殺

せるのがこいつの本性やき。

恵 黙れ言いゆうろうが。

栄治郎 ……危ねえき降ろしや。な。

流 何があつたが……のう。

恵 ……こいつ……うちらあを殺すで。

流 あ。

恵 財産全部ぶんどるつもりながよ。そんなことさせんき。

……うちらあ、お金貰うて家建てて、残りの半分で山
をかうき。もうその算段も進めゆうがよ。そんな邪魔は
させんき。

流 何で公ちゃんがそんなことするがで。

恵 うちらあが羨ましいがよ。憎たらしいがよ。

流 そんなことないやろが。

甘く見たらいかんちや。こいつ、うちに包丁向けたが
よ。

流 え。

公子 おまんが暴れるき。

恵 あんたあ、ここで殺しちよかんと、この女になんもかも奪われるで。

流 そんなことないちや。

恵 ある。

流 俺の話を聞けや。

栄治郎 ……何でや……何がこうさせるんや。

公子 お金よ。お金が欲しゅうて人を殺すがよ。

恵 うちの身を守る為や。

流 ……おまん、撃つたら警察行くがで。折角お金貰うても、使わんまま刑務所の中で過ごすがか。これから俺

らあ遊んで暮らせるがで。

恵 ……ああ……ああ……ほんまや……。

と猟銃を下ろすと、慌てて猟銃を離す恵。栄治郎がそれを取る。

恵 ……こいつ、うちにお金使わせんつもりながよ……危

うく騙されるところやったわ……（と笑う）。

栄治郎 ……（泣きそうになって）メグちゃん……何でそんなになつてしもうたが……俺を助けてくれたときのあんたは……ほんまに……これ以上、俺を……がっかり……させんでくれんかえ……。

と泣く栄治郎。

流 ……栄治郎。

公子 帰ってや……帰りい。

流 行くで。

流と恵は去る。

栄治郎の泣き声は、
大きくなって……。
暗転。

第八場

木材を加工している音。

明かりが入る。

現代の和田家。栄治郎は写真を整理している。

栄治郎 ……ほんなら……晋と、翔子さんが。

明神 ええ。

栄治郎 そりゃあめでたい話やけど、彼女は、来年の3月で帰ってしまおう。

明神 また、戻って来たいと仰っています。

栄治郎 そうか。それは楽しみが増えるのう。

明神 私には、朝倉さんの誘いが迷惑だと仰っていたんですが。

栄治郎 いやあ、女性が嫌がることをやっちゃいかんが。

明神 ええ、そう思って、坂井さんを守ろうとしたのですが……それが何故か……結果としてですね、二人の仲を取り持つ形になったよう。狐につままれたような話ですが。

栄治郎 人間は、一筋縄ではいかんものやき。

明神 全くです。

栄治郎 こういので、えいが。

と一枚の大きな写真を渡す栄治郎。

栄治郎 10年くらい前に、酷い濁水があって、そんときの写真よ。

明神 当時話題になりましたよね。香川の人達がバスで、この役場を見に来たと聞きました。

栄治郎 今の人は、ダムのこととは知らんきのう。何で水がないかと水源を辿ったら、こん大川のことを知ったちや。

明神 それから香川県は、間伐と除伐の予算の一部を、負担してくれているそうですね。

栄治郎 水が濁らんように頼むゆう話やろう。

明神 栄治郎さんも、議員になる前は、林業をなさっていたんですよね。

栄治郎 うん。

明神 堰堤を造っている現状を、どうお考えですか。

栄治郎 ……ダムの為に、山を切り崩したろう。あれで土壌が

弱くなったき……ちつとの雨で、水は濁る。……もう

……どうにもならん。

明神 谷には、綺麗に整備された、田園が広がっていたそうですね。

栄治郎 ……源の両親ものう、昔、田んぼをやりよったき。

明神 そうでしたか。

栄治郎 大川で穫れた米は、美味かったがよ。

明神 川の水は、大川の誇りだったんですね。

守が帰ってくる。

守 ただいま。

栄治郎 おかえり。

守 あ、その節はどうも。

明神 お邪魔しています。

守 姉ちゃんは。

栄治郎 畑にいつちゅう。

守 風呂の火、まだ。

栄治郎 おう。

守、新聞紙とライターを持って、勝手口へ。

栄次郎 ……源……源。

源の声 はーい。

栄治郎 まだかえ。明神さん待ちちゅうろう。

源の声 今、行きます。

栄治郎 すまんのう。あれはあれで、没頭する男やき。

明神 いえ。

勝手口を出る守。明水がやって来る。

守 あら。

明水は会釈する。

守 お父ちゃん。

栄治郎が立ち上がり、勝手口を見る。

栄治郎 明水さん。

守 どうぞ、お上がりください。

明神 ……あ。

明水 ……こんにちは。

会釈する明神。

栄治郎 どうしたか。

源 源が出て来る。

源 すみません、お待たせしました。……何でおるが。

明水 ……メールしたよ、何度か。

源 見ちよらんが。仕事しよったき。……工場、見ますか。

明神 あ、是非。

源 どうぞ。入って下さい。

明神は去る。源は明神の後に工場に去ろうとする。

栄治郎 ……まあ、どうぞ。

明水 ……母と、話しました。

立ち止まる栄治郎、源、守。

明水 ……聞きました……昔……何があったか……この家で……全部……

栄治郎と源は目が合う。明水は源を見る。源は去る。

明水 ……。

栄治郎 ……まあ、座りい。

栄治郎は座る。明水も続いて座る。

守は勝手口から去る。

明水 ……何ちゃあ……偉そうなことゆうてましたけど……結局……。保険の仕事するに、人の顔を見てお金や思うな言いよった理由が、わかりました。

栄治郎 恵さん……よう話したな……子供のあんたに。

明水 ……相当渋ってましたけど……話すまで帰らんで啖呵きつたら……ようやく話してくれました……。

栄治郎 ……話す方も……辛かったろう。

明水 源も……知っちゃったがですか。

栄治郎 ……（頷く）流から、聞かされちゅう。

明水 それで……母親に会いに来んがですか。

栄治郎 それが理由かわらんが。

明水 ……父と離婚した理由も……酒に溺れた聞いたちよりましたけど……ほんまは……父が村に帰ろうとしたが、原因やったがですね。

栄治郎

……恵さんがゆうがはあながち間ちごうちよらんて。
……流は、お金がある思うて、気が大きゆうなつちよ
つたがよ。仕事をする気力ものうなつて、毎日昼間か
ら酒飲みよつたき。……ほんなら、個人補償のお金で
買った山が、二束三文にしかならんもんでのう。

明水

……当時、補償のお金を狙った山林ブローカーがいて、
騙されたつて、母がゆうてました。

栄治郎

家しか残らんやつた。……流は市内で仕事についたが
やけど、人間関係が上手くいかんかったが……それで、
村に帰る帰らんで毎日喧嘩になつたらしい……あると
き……流が訪ねてきてのう、林業の手伝いをやらせて
くれいち……俺に泣きついて来よつた……。

美樹

美樹が家で穫れた野菜を持ってやって来る。

お父ちゃん。今年はどうお茶葉が（伸びちよる）。

美樹

明水に気づく美樹。

明水

……明水さん。
（会釈する）。

美樹

どうしたんです。来るならゆうて下さいよ。

栄治郎

源の奴に連絡したそうじゃが、見ちよらんかったちや。

美樹

ああ、そりやあすみません。

明水

いえ。

明水

美樹は台所に立つ。

明水

……公子さんは……何て仰ってましたか……母のこ
と。

栄治郎

美樹は明水を見る。

明水

……。

栄治郎

栄治郎さん。

明水

そりやあ……聞かん方がえい。

明水

……母は……公子さんのお葬式に出んかったことを……
後悔しちよりました……出ないかん思いよつたがで
すけど……父からもいろいろ聞いちよつたやろうし……
……どの面下げて行つたらいいか、わからんかったて……
……。

栄治郎

……。

美樹

……こんなことゆうていいかわかりませんけど……うちの母は、恵さんのこと……鬼のような女やあゆうちよりしました。

栄治郎

えいが、そんな話は。

明水

聞かせて下さい。……母が知りたがってますき。

美樹

……話しちゃった方がえいがやないが。

栄治郎

……。

美樹

……自分を殺そうとした……阿修羅に取り憑かれた女やあゆうちよりしました。……絶対に許さんて……源の前でも、そうゆうちよりしました。……ずっと、憎みよったがです。

栄治郎

大きな財産が手に入るき、奪われるて、不安になってしもうたがよ。人間を信じられんようになってしもうたがよ。

明水

……母は……ほんまに今でも……何であんなことが出来たが……自分でも恐ろしい言いよりました。……私に話さんかったがは……あん記憶を消したいからやて……消せる思うちよったて言いよりました。……けど今でも、新聞に大川村の記事が出ると……思い出すがやそうです……埋まってしもうた、村役場と同じように……あん記憶も……水の底に沈めたつもりやつたのに……何で人の記憶は埋まってしまわんがかえ……水がのうなつて、あん役場がたびたび顔を出すように……こん記憶も、死ぬまで、絶対に消えんがやろうか……埋まってしもうてくれ……なくなつてしもうてくれ……頼むき……役場も……記憶も……なんもかも……そうゆうて……涙を流しちよりました……。

栄治郎

……今でも時々思うがよ……あん頃の、親父らあが必死で反対しよつた村が、本当の姿か……今の、目の前の風景が、本当の姿か……けんど、現実と記憶の狭間でいくら揺れ動いても……ダムに反対したあの思いだけ……何年経つても消せんちや。……目の前にダムがあつても……記憶ん中の村を思うと、合意出来んちや。やき、メグちゃんの記憶も……死ぬまで消えんろ

う。

美樹 ……うちの母は、ダムが出来た後も、ずっと記憶の中で生きちよりました。ダムの川にうちを連れていって、あの辺りに役場があつて、その向かいに農協があつて、こつちには公民館、あつちには卒業した学校があつたて……山側には段々になった田んぼがずーっと続いちゃよつて、知り合いの田んぼをよう手伝つたあゆうちよりました……うちが生まれたときにはもうダムは出来ちよつたがやですけど、水の底の風景はきつと美しかつたやろうて、母の話から、想像しちゆうがです。

明水 ……この村は、自然と共に生き抜いていく知恵を、親から子へ、子から孫へ、代々受け継ぐ風習があるがでしよう。市内は、新しい建物が出来て、風景が次々変わりゆうがですけど、それで失われる歴史があるて、母はゆうちよりました。

栄治郎 歴史は、出来ごとだけを教えるんやのうて、そこで生きた人間の思いと一緒に語り継いでいかんどのう。人間の思いを語らんと、今のうちに、また戦争せんといかんゆう阿呆なこと言い出す奴が出てくるきのう。

美樹 ほんまで。米軍がダム湖で、よう訓練やりゆうろう。どうするが。この山に基地造らしてくれ言われても、もううちらあ国のゆうことなんか一切聞かんきなあ。断固反対がこん村の伝統やき。

栄治郎 そのときはもう、日本から独立しようや。

美樹 (笑つて) お父ちゃん、それえいわ。

栄次郎 今度の謝肉祭の時にメグちゃんにも来てほしいてゆうちよつて。

明水 実は、母を、この村に移そう思いゆうがです。

栄治郎 え。

明水 私も一緒に。

美樹 ……ほんまですか。

明水 最後は、この村で過ごすのが一番やあ思うがです。どう思います。

美樹 えいやないですか。明水さん、仕事もあるがでしよう。

私が面倒看ますき。是非来て下さいよ。なあ、お父ちゃん。

栄治郎 おう……いつでも待ちゆうって……そう、ゆうちよつて。

明水 はい。

工場から、源と明神がやって来る。

明神 ありがとうございます。

源 いえ。

栄治郎 御免よお、お客さんが来ちゆうき。

明水 ああ、おかまいなく。

栄治郎 まあ、どうぞ。

明神 はい。あのお手洗いは。

源 こっちの奥に。

明神は去る。源は家に入って座る。守が戻ってくる。栄治郎は立ち上がり、線香と蠟燭、ライターを手に取る。

栄治郎 ちいと、流と公子にゆうてくる。

美樹 うん。

泣き出す明水。守がティッシュを持ってくる。

守 どうぞ。

明水 ごめんねえ、こんな顔で。

守 いいえ。お金稼ぐだけではどうしてもおかしゆうなります。そうやって、泣いたり笑うたりするが人間本来の仕事ですき。

栄治郎が出ていく。明神が戻ってくる。守は去る。

美樹 明水さん、ご飯食べてって下さい。

明水 あ、はい。

明神が戻って来る。

美樹 大川牛貰うたんがあるき。

明水 ほんなら手伝おうか。

美樹 えいです。座っちゃって下さい。

明水は少し離れて座る。守は去る。美樹は茶を配し、去る。

明神 どれも、間伐や除伐した木を上手く使っていらつしや

つて、大変感心いたしました。

源 木は、一本の欠片でも無駄にはしませんき。

明 神 ただ一つです。ね、疑問に思った点があります。

源 何ですか。

明 神 駅の近くの公園に置いているあの子供の遊具です。

源 ああ。

明 神 先ほど源さんは、世界一危険な遊具とおっしゃいました。が。

源 はい。

明 神 今このご時世で、子供が遊ぶものとしては、少し、不
源 適当ではありませんか。

源 安全面のこと、言いゆうがですか。

明 神 ええ。もし万が一、何かあってからでは、遅いのでは
源 ありませんか。

源 あんた、それは子供を馬鹿にしちゆうがです。

明 神 はい。

源 子供にも知恵というものがありますでしょう。

明 神 それはそうですが、怪我をしたら親が黙っていません
源 よ。

源 それは親の視点で見つめているがでしょう。親は親の
視点で話すのは誰の為になるがですか。親だけが選挙
権を持って、子供にはないからでしょう。子供の安
全を守るゆうがを政治の道具にしてませんか。子供に
は子供の社会というもんがあるがです。

明 神 関係ありません。抗議の対象になります。いつか必ず
源 撤去されます。

源 あれはそういうもんやないですき。あれをどういう姿
勢で上ればえいか、あるいはどうやって降りるかを、
子供の頭で考えさせるのが目的ですき。子供だって、
怪我はしとうない思うでしょう。ほんなら、どうやっ
て降りたら安全かを自分で確かめます。子供は、何処
までが危のうて、何処までが安全か知恵を絞ります。
何処までが人間に出来ることで、何処からが無理かを
知るゆうことです。あの遊具は、そういうもんですき

に。

明神

公園は公的な場所です。子供の安全を第一に考えるべきではないでしょうか。

源

子供の身の安全を、何で私らあが守れるがですか。

明神

失礼ですが、お子さんは。

源

いますよ。小学生のが二人。

明神

でしたらおわかりになりますよね。子供は未成熟です。我々大人がしっかりと管理しないと、いつ何が起きるかわかりません。

源

ある程度の生きる知恵は授けますよ。私は6歳のとき、市内から村へ越してきましたが、村の子供達も、よう山に入っちよります。どの草やキノコが食べられて、どれが食べられんかを自分で知っちよかんと、ここでは暮らせんですき。けんど、山に入って怪我をしたら、それはもう自分の責任でしょう。怪我をしようなかつたら、自分の身を守る知恵を自分自身で学ばんといかんがです。

明神

ですが、全国的に考えると、山に入る子供達の数の方が圧倒的に少ないでしょう。食べられる草やキノコの知識などは、普通の子供には必要ありませんよね。

明水

あの。

明神

はい。

明水

多数派が、常に正しいという訳ではないと思いますけど。

明神

民主主義とはそういうものです。

明水

日本の場合はそうかもしれないませんが、地球規模で考えると、弟が言っているような価値観で生きている人々も、多く存在するがやないがですかねえ。何処に境界線を引くかで、普通の定義は変わるがでしょう。

明神

私たちは日本人ですから。

源

大人が子供を過保護にしすぎると、子供は一人で何も出来んようになるでしょう。自分の身に危険が迫ったら、どう対応していいかわからん鈍感な人間が育つと違いますか。

明神 そんなことはありません。今はほら、南海トラフ地震のCMを放送していますでしょう。避難箇所とか、いろいろ確認しています。市内の人間だって、危機管理に関しては敏感になっていますよ。

明水 そこまで説明せんと危ないゆう実感がわかんのが、鈍感だと弟はゆうてるがです。

源 一番マズいのは、地震を怖がることやないがですかね。……あなたは、地震が怖くないのですか。

明神 何でえ。自然の摂理ですから、それはもうあるものとして、受け容れて生きていくのが当たり前でしょう。

明水 それが、この村の価値観なんです。

明神 この村だって大きく揺れますでしょう。

源 崖崩れくらいは、起きるでしょうね。

明神 それで道路が封鎖されるかもしれません。市内からここまででは、一本道です。それが途絶えたら、この村は完全に孤立します。

源 けれど、俺らあ家が壊れても、木は一杯あるき、自分で修繕出来ますし、水が出らんかったら山の水源までホースを見に行きます。電気がなくてもランプがありますし、火だって起こせます。食いもんは畑があるき、普段から滅多に買うことはないがです。……地震が起きても……特に困ることはないがですきね。

明神 この村には病院がありません。孤立した状態で怪我人が出たら、どうするおつもりなんですか。

源 病院は出来んがです。400人しかおらんのに。商売にならんでしょう。

明水 どうして、あなたの言葉はいつもそうなんですか。

明神 はい。

明水 人間の危機感に訴えかけちよりますよね。

明神 ……。

明水 その方が、みんなの同意を得やすいからですか。日本人は、危機管理能力に乏しいですから。

明神 そんなつもりはありません。

明水 あの記事だってそうです。村議会が出来なくなつて村

民総会になったら困るだろうって、日本中の人達が注目しました。けれど、村の人らあは、そんなこと真面目に考えてないがでしょう。

明神 嘘ではありません。ある議員さんの言葉をもとに書きました。

明水 あなたはそれで、危機感を憶えたがですか。それとも、やれミサイルが飛んで来るだの何だのて、国民を煽ってるどこぞの誰かの手口を真似たがですか。……まあ、それはどちらでもえいですけど、そんなに危機感を煽られてもですね、この村の人らあは、合意出来んがです。地震、ミサイル、何ちゃあないが、ぐらいにしか思わんがです。だって、自然と共に生きている普段の生活が、充分過酷なんですから。……ここには、そういう風土が根付いているんです……ねえ。

源 ……姉の……言う通りです。

明神 ……村の為に何か出来ることはないか……ずっと、そう思っていました。そもそも、それが間違っていたのでしょうか。

明水 とんでもない。それはありがたいことです。

源 ほんまです。

明神 ……自治という言葉の意味を私はまだわかっていないのかもしれない。もつと……村のことを学びます。……お邪魔しました。

源 はい。

立ち上がる明神。見送ろうと立つ源。戻ってくる

美樹。

明神 ああ、もうここで。

源 そうですか。

明神 では。

美樹 また、いつでも来て下さい。

明神 失礼します。

明神去る。それぞれ会釈をする。

源 ……どうしたが。随分、村に理解があるがやね。

美樹 村に住むってよお。恵さんと一緒に。

源 ほんまか。

明水 ほんまよ。

源 ほうか。

美樹 楽しゅうなるで。もっぺん畑行つて来る。

源 おう。

美樹は去る。

源 ……親父のう……ほんまは別れとうなかつたがよ。

明水 うん。

源 ……こん村に、おふくろを連れて帰りたいかたかちや。

……あいつは、病にかかったて、言いよったき。こん村で暮らせば治る、ずーっとそう、言いよったがよ。

……親父も……喜ぶろう。

明水 ……そうながや。

源 ほんまに住めるか。あんた、こん村好きやなかつたがやろう。

明水 今は好いちゆうがよ。……こん村は、うちの誇りやき。

……この国の……最後の良心やき。

(了)